

2025 年度（令和 7 年度）

愛 知 県

「若者・外国人未来応援事業」

成 果 報 告 書

2026（令和 8）年 3 月

愛知県教育委員会あいちの学び推進課



# 目次

1	本県における事業の必要性と事業の趣旨・目的	1
2	事業の全体概要	2
3	2025（令和7）年度「若者・外国人未来塾」の実施状況	
	【学習支援】	
■	名古屋地域	16
■	豊橋地域	19
■	豊田地域	22
■	半田地域	25
■	春日井地域	28
■	一宮地域	32
■	蒲郡地域	35
■	愛西地域	38
■	知立地域	42
	【日本語学習支援】	
■	名古屋地域	45
■	豊橋地域	47
■	豊田地域	50
■	春日井地域	52
■	蒲郡地域	55
■	知立地域	58
<b>&lt;項目&gt;</b>		
●	参加者の状況	● 参加者の感想・メッセージ
●	支援スタッフ	● 参加者への周知・広報
●	日本語学習支援の内容について	● 成果と課題（支援スタッフ・運営者）
●	運営者の声	
○	参加者ピックアップコラム	
4	2025（令和7）年度「若者未来応援協議会」の実施状況	
(1)	合同協議会について	61
(2)	地域協議会について	61
5	学習支援に参加された皆さんの声	67
6	事業の成果と課題	
(1)	成果	68
(2)	課題	68
	<取組全体を振り返って>	69
	【「こども・若者、子育て当事者の置かれた状況等を把握するための指標」の状況】	
		75

## 1 本県における事業の必要性と事業の趣旨・目的

近年、所得格差は拡大し「子供の貧困」が社会的に注目されている。厚生労働省の2022（令和4）年国民生活基礎調査によると、2021（令和3）年の貧困線<sup>1</sup>は127万円となっており、貧困線を下回る所得の世帯が相対的貧困にあたる。将来的な進学や就職などへの影響も深刻とされる、17歳未満の「子どもの貧困率<sup>2</sup>」は11.5%（OECD平均：12.8%）で、前回調査（2019（令和元）年）時の14.0%（2018年数値）から2.5%減少しているものの、依然としておよそ8人に1人が該当し、貧困家庭に生活する結果となっている。また、子供がいる現役世帯<sup>3</sup>のうち、「大人が一人<sup>4</sup>」の世帯員でみると44.5%（2019年調査から3.8%減、OECD平均：31.8%）にのぼり、半数近くが困窮にあえぐ状況が続いている。特に、社会的困難を抱えた子供にとって学校を離れた後の継続的な支援がないことが課題とされている。

本県においても、義務教育段階の支援については、放課後子ども教室<sup>5</sup>や地域未来塾<sup>6</sup>及び不登校の支援をアウトリーチにより実施している家庭教育コーディネーター設置事業など（いずれもあいちの学び推進課が担当課）があるが、義務教育終了後の社会的困難を抱える若者に対する支援体制は十分ではない。

また、本県には外国人居住者が多く、日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は11,924人と全国最多であり、2番目に多い神奈川県（6,182人）の約2倍と突出している。

本県の困難を抱える若者の状況については以下のとおりである。

### 【県の状況】

・中学校不登校生徒数：14,899人	<b>全国ワースト4位（2024年度）</b>
・中学校卒業後進路未定者数：772人	<b>全国ワースト2位（2024年度）</b>
・高等学校等中退者数：2,436人	<b>全国ワースト4位（2024年度）</b>
・日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数：11,924人	<b>全国1位（2023年度）</b>

<sup>1</sup> 等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額。2018（平成30）年の調査から「新基準（2015（平成27）年に改定されたOECDの所得定義の新たな基準）」となっている。

<sup>2</sup> 子ども（17歳以下の者）全体に占める、等価可処分所得が貧困線に満たない子どもの割合。貧困率は、その人の所得ではなく、その人が属する世帯の所得をもとに計算。

<sup>3</sup> 世帯主が18歳以上65歳未満の世帯のこと。

<sup>4</sup> 「子どもがいる現役世帯」に含まれる「大人」には親以外の世帯員も含まれるため、「祖父（母）と子ども」「18歳以上の兄弟と子ども」といった場合等も考えられ、「ひとり親世帯」とは限らない。

<sup>5</sup> すべての子どもを対象に、地域の方々の参画を得て、放課後や土曜日等に学習や様々な体験・交流活動、スポーツ・文化活動等の機会を提供する取組

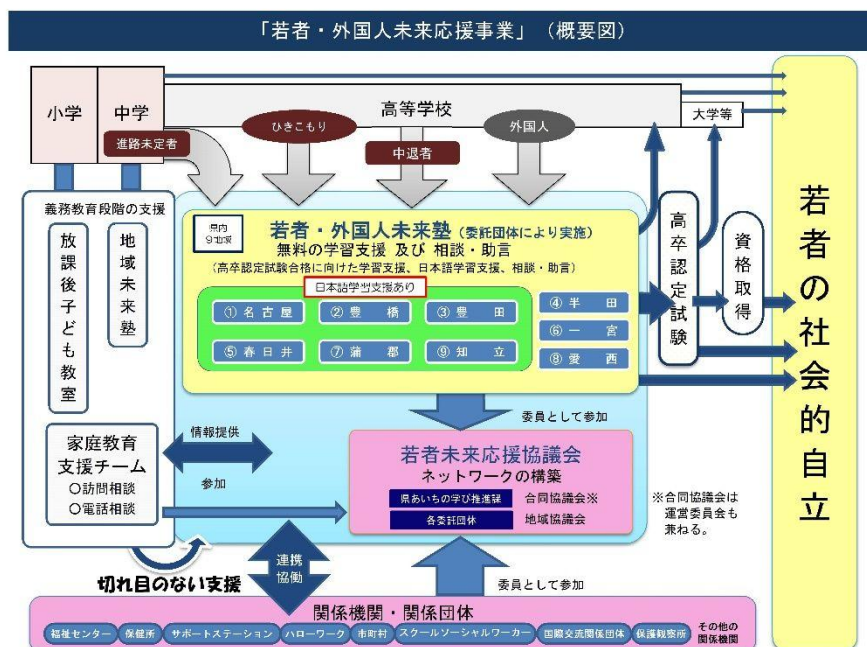
<sup>6</sup> 様々な事情により、学習習慣が十分に身につけていない中学生への学習支援を、大学生や教員OB、NPOなど地域住民の協力により学習支援を実施する事業

こうした状況を鑑み、本県は、文部科学省の「地域の教育資源を活用した教育格差解消プラン～親子の学び・育ち応援プラン～」(後に「学びを通じたステップアップ支援促進事業」となる。)の委託を受け、2017(平成29)年度から「若者・外国人未来応援事業」の実施を開始した。その後、3年間委託を継続し、2020(令和2)年度からは「学校・家庭・地域連携協力推進事業補助金」(学校を核とした地域力強化プラン)の一つとして新設された「地域における学びを通じたステップアップ支援促進事業」を活用して事業を行うこととし、本年度で9年目となる。

本事業においては、中学校卒業後の進路未定者や高等学校中退者等の社会的自立を支援するため、地域若者サポートステーション<sup>7</sup>(以下「サポステ」という)をはじめとした、教育、福祉、保健、労働、多文化共生等の関係機関等と連携し、学校教育から切れ目のない支援を行うこととした。また、社会と出会う学びづくりをとおして、社会的困難を抱えた若者の自己肯定感を高め、自立を促すことにより将来の貧困を防ぐとともに、若者の多様な居場所づくりに地域全体で取り組むことにより、困難を抱えた若者を地域で支援する体制の構築を目指すものである。

## 2 事業の全体概要

【2025(令和7)年度 事業概要図】



<sup>7</sup> 働くことに踏み出したい若者たちとじっくり向き合い、本人や家族の方々だけでは解決が難しい「働き出す力」を引き出し、「職場定着するまで」を全面的に支援する厚生労働省委託の支援機関。支援対象者は、原則、49歳までの若年無業者等で就職を目標とする人とその家族。

・家庭教育支援チーム…学校や地域、教育委員会等の行政機関や福祉関係機関と連携しながら、子育てや家庭教育を応援する活動を行う地域人材からなる団体

## (1) 「若者・外国人未来塾」・「若者未来応援協議会」

愛知県では、事業名を「若者・外国人未来応援事業」とし、県教育委員会あいちの学び推進課が主体となり、七つの委託団体及び関係機関・団体等と協働して、事業を実施する。

本事業は、「若者・外国人未来塾」と「若者未来応援協議会」の二つを柱とする。

### ア 若者・外国人未来塾

「若者・外国人未来塾」とは、県内9地域（名古屋、豊橋、豊田、半田、春日井、一宮、蒲郡、愛西、知立）において、無料の学習支援及び相談・助言事業を行う支援の場である。中学卒業後の進路未定者、高校中退者、ひきこもり状態の人及び外国人等、社会的困難を抱える若者を対象として、主に高卒認定試験合格に向けた支援を行う。また、名古屋、豊橋、豊田、春日井、蒲郡、知立の6会場においては、日本語習得の不十分な外国人のため、学習言語としての日本語学習支援も行う。

また、学習面で問題を抱える若者は、他の様々な社会的困難も同時に抱えていることがあるため、対象者の要望に応じ、本事業で連携する福祉、保健、労働、多文化共生等の関係機関・団体の適切な窓口を紹介し、支援が受けられるように誘導する。

## 【2025（令和7）年度「若者・外国人未来塾」の実施概要】

### ●高卒認定試験合格等に向けた学習支援、相談・助言

地域	委託団体	会場	実施日	開始日
名古屋	NPO法人 あいち・子ども NPOセンター	愛知県図書館	水曜日 17:30～19:30 土曜日 15:00～17:00	4月6日
豊橋	一般社団法人GENTEAL	豊橋市青少年センター	火曜日 18:00～20:00 木曜日 18:00～20:00 金曜日 18:00～20:00	4月1日
豊田	公益財団法人 豊田市文化振興財団	豊田市青少年センター	水・金曜日 18:00～21:00 第1・第3土曜日 13:30～16:30	4月2日
半田	NPO法人ICDS	ちた地域若者 サポートステーション	水曜日 15:00～17:00 土曜日 13:00～17:00	4月4日
春日井	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター 事業団	春日井若者 サポートステーション	月曜日 17:00～20:00 木曜日 18:00～20:00	4月10日
一宮	NPO法人 あいち・子ども NPOセンター	一宮市立中央図書館	火曜日 17:30～19:30 土曜日 16:00～18:00	4月5日
蒲郡	NPO法人 青少年自立援助センター 北斗寮	がまごおり若者 サポートステーション ----- とよかわ若者 サポートステーション	水曜日 13:00～18:00 木曜日 13:00～18:00 ----- 木曜日 11:00～17:00 金曜日 11:00～17:00 土曜日 11:00～17:00	4月1日

愛西	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター 事業団	愛西市文化会館	火曜日 18:00～20:00 金曜日 18:00～20:00	4月11日
知立	NPO法人ぷらっとほーむ	刈谷市中央図書館	水曜日 16:00～18:00 金曜日 16:00～18:00	4月2日
		ぷらっとほーむ事務所 (安城市)	水曜日 13:30～15:30 金曜日 13:30～15:30	

●日本語学習支援

(対象：日本語支援が必要な外国人等。内容：読み書きを中心に個別指導を基本とする。)

地域	委託団体	会場	実施日	開始日
名古屋	NPO法人 あいち・子ども NPOセンター	愛知県図書館	土曜日 15:00～17:00	4月5日
豊橋	一般社団法人GENTEAL	豊橋市青少年センター	火曜日 18:00～20:00 木曜日 18:00～20:00 金曜日 18:00～20:00	4月2日
豊田	公益財団法人 豊田市文化振興財団	豊田市青少年センター	水・金曜日 18:00～21:00のうち1 時間	4月3日
春日井	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター 事業団	春日井若者 サポートステーション	月曜日 17:00～20:00	4月14日
蒲郡	NPO法人 青少年自立援助センター 北斗寮	がまごおり若者 サポートステーション	水曜日 13:00～18:00 木曜日 13:00～18:00	4月2日
		とよかわ若者 サポートステーション	木曜日 11:00～17:00 金曜日 11:00～17:00 土曜日 11:00～17:00	
知立	NPO法人ぷらっとほーむ	刈谷市中央図書館	水曜日 16:00～18:00 金曜日 16:00～18:00	4月2日
		ぷらっとほーむ事務所	水曜日 13:30～15:30 金曜日 13:30～15:30	

イ 若者未来応援協議会

学識経験者の助言のもと、就労支援機関をはじめ、福祉、保健、労働、その他関係機関・団体等と、効果的な連携・協働の在り方等について協議するため、県教育委員会あいちの学び推進課が設置。対象者が必要とする支援先を相互に案内できるネットワークの構築を目指す。

- ・関係機関等に対する事業周知、及び、相互の連携・協力体制の構築を図るため、県レベルの委員で構成される**合同協議会**を設置。（年2回開催）
- ・各地域の実情に応じた支援ができるよう、各地域における関係機関・団体等の委員からなる**地域協議会**を設置。（各地域で年2回開催）
- ・合同協議会は、研究部会の機能を加え、全ての実施地域の事業の在り方、事業の普及・啓発方策及び事業の評価等について総合的に協議することとする。

- ・各地域で実際に利用者に対して学習支援を行っている様子の見学・情報交換等を行う機会として、委託団体が他地域学習支援の視察を行う機会や、合同協議会・会長と委託団体、本課が参加する事業内容の充実を目指す情報交換会をオンラインで実施した。

【2025（令和7）年度 若者未来応援協議会 合同協議会委員名簿】

● 合同協議会		
大村 恵	学識者	愛知教育大学・特別教授
川北 稔	学識者	愛知教育大学・准教授
野尻 紀恵	学識者	日本福祉大学・教授
竹内 洋江	委託先	NPO法人あいち・子どもNPOセンター・常任理事
山下 智史	委託先	一般社団法人GENTEAL・学習支援員
近藤 雅子	委託先	公益財団法人豊田市文化振興財団／豊田市青少年センター・所長
鵜飼 数正	委託先	NPO法人ICDS／ちた地域若者サポートステーション・センター長
小楠 修平	委託先	労働者協同組合 ワーカーズコープ・センター事業団 東海事業本部 名古屋事業所長
鈴木 法政	委託先	NPO法人青少年自立援助センター北斗寮・理事長
高須 了	委託先	NPO法人ぷらっとほーむ・理事
丹波 三香	国・就労	愛知労働局職業安定部職業安定課職業紹介係・業務補佐
川原 素子	県・青少年	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課・課長補佐
中村 克成	県・多文化	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室 (多文化共生推進G)・室長補佐
林 大貴	県・多文化	愛知県県民文化局県民生活部社会活動推進課多文化共生推進室 (日本語教育推進G)・室長補佐
竹内 かおり	県・福祉	愛知県福祉局福祉部地域福祉課・課長補佐
三輪 扶弥	県・保健	愛知県保健医療局健康医務部医務課こころの健康推進室・室長補佐
竹山 桂子	県・就労	愛知県労働局就業促進課・主査
亀田 篤	県・教育	愛知県教育委員会高等学校教育課・課長補佐
長坂 昌彦	県・生涯	愛知県教育委員会あいちの学び推進課・課長

## (2) 契約について

学習支援の利用者からは、「切れ目のない支援」を求める声が聞こえる。また、人間関係を築くことがあまり得意ではない方が、本事業においては利用されるケースが多い。したがって、利用者にとって安心できる学習支援環境を整えるため、切れ目ができるだけ短くなるように4月から2月末（3月初頭）までの実施期間とし、現実実施団体に継続して委託ができるようにした。

### 【（参考）契約時期】

年度	事業形態	契約に向けて	契約時期
2017～2019	【委託事業】	・国の審査を経て事業実施	◎7月契約 (継続地域の契約は2018年度から)
2020	【補助事業】	・県のプロポーザル審査会で委託団体を選定後、契約	◎5月契約
2021～2025	【補助事業】	・継続地域については現委託団体と随意契約	◎4月契約

(3) 9か年の事業実績

① 学習支援参加者

地域	実人数(下段：外国人内数)									延べ人数(下段：実施回数)								
	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017
名古屋	28	30	42	39	36	23	24	20	25	215	286	491	339	259	219	222	180	61
	0	0	2	3	0	0	0	1	8	85	83	88	83	86	66	68	69	30
豊橋	17	19	26	20	29	32	23	18	11	268	223	531	358	376	426	401	191	190
	8	9	14	13	21	24	13	7	0	126	123	124	84	87	58	69	67	59
豊田	36	27	28	29	34	35	30	14	9	414	342	340	245	420	528	371	102	154
	21	14	13	18	20	23	20	5	1	115	115	116	115	113	100	65	61	59
半田	21	31	23	17	10	5	3			240	350	291	122	151	66	47		
	1	1	1	0	3	0	0			125	81	76	84	91	67	55		
春日井	16	14	12	19	13	11	5			120	185	257	197	260	215	135		
	1	0	1	3	0	0	0			91	79	75	80	74	70	68		
一宮	19	13	18	7	4	4				195	223	268	86	23	24			
	6	3	8	4	0	2				81	77	84	82	74	60			
蒲郡	23	28	32	30	37	12				321	444	661	653	397	159			
	2	2	0	0	11	3				138	171	200	183	171	102			
愛西	7	5	11	9	4					83	114	118	127	76				
	0	0	6	3	0					77	77	71	79	63				
知立	18	25	14	19						217	248	227	223					
	4	12	0	4						91	91	88	81					
合計	185	192	206	189	167	122	85	52	45	2,073	2,415	3,184	2,350	1,962	1,637	1,176	473	405
	43	41	45	48	55	52	33	13	9	929	897	922	871	759	523	325	197	148
									1回平均	2.23	2.69	3.45	2.7	2.58	3.13	3.62	2.4	2.74

② 日本語学習支援参加者

地域	実人数									延べ人数(下段：実施回数)								
	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017
名古屋	1	2	2	4	0	4	20	5	12	1	12	3	10	0	20	118	26	49
										42	40	43	40	44	20	33	33	30
豊橋	7	12	8	11	18	19				176	154	108	28	89	161			
										108	93	124	45	47	31			
豊田	12	7	10	18	20	24				349	140	171	160	268	300			
										115	114	116	115	113	96			
春日井	2	1	1							6	1	14						
										43	34	37						
蒲郡	26	18	21	22						496	293	255	387					
										163	134	152	157					
知立	17	16	19							139	177	324						
										91	91	88						
合計	65	56	61	55	38	47	20	5	12	1,167	777	1,347	942	561	628	151	59	79
										562	506	560	357	204	147	33	33	30
									1回平均	2.08	1.54	2.41	2.64	2.75	4.27	4.58	1.79	2.63

### ③ 参加者の状況について

#### ア 年齢

##### 【学習支援】

地域	内訳	～12才	～15才	～19才	～24才	～29才	30才～	不明 未回答	計
名古屋	参加者			7	5	5	11		28
	うち外国ルーツ								
豊橋	参加者	1	7	6			3		17
	うち外国ルーツ	1	5	2					8
豊田	参加者		8	27	1				36
	うち外国ルーツ		3	17	1				21
半田	参加者		1	6	6	3	5		21
	うち外国ルーツ		1						1
春日井	参加者		2	12	2				16
	うち外国ルーツ			1					1
一宮	参加者		3	14			2		19
	うち外国ルーツ		1	5					6
蒲郡	参加者		10	9	1		3		23
	うち外国ルーツ		2						2
愛西	参加者		2	3	1		1		7
	うち外国ルーツ								
知立	参加者	2	2	8	4	1	1		18
	うち外国ルーツ			3	1				4
合計	参加者	3	35	92	20	9	26		185
	うち外国ルーツ	1	12	28	2				43

##### 【日本語学習支援】

地域名	～12才	～15才	～19才	～24才	～29才	30才～	不明 未回答	計
名古屋						1		1
豊橋		1	2	1	1	2		7
豊田	2	10						12
春日井		1	1					2
蒲郡	3	7	5	2	2	7		26
知立	4	3	10					17
合計	9	22	18	3	3	10		65

イ 居住地

	学習支援										日本語学習支援														
	名古屋	豊橋	豊田	半田	春日井	一宮	蒲郡	愛西	知立	計	名古屋	豊橋	豊田	春日井	蒲郡	知立	計								
	:外	:外	:外	:外	:外	:外	:外	:外	:外	:外	外	外	外	外	外	外	外								
名古屋市千種区	2									2															
名古屋市東区																									
名古屋市北区	1									1															
名古屋市西区	1									1	1						1								
名古屋市中村区																									
名古屋市中区																									
名古屋市昭和区	3									3															
名古屋市瑞穂区																									
名古屋市熱田区																									
名古屋市中川区	4									4															
名古屋市港区	1							2		3															
名古屋市南区	1									1															
名古屋市守山区	2									2															
名古屋市緑区	2								4	6															
名古屋市名東区	2									2															
名古屋市天白区	4									4															
清須市	1									1															
北名古屋市																									
長久手市																									
豊山町																									
日進市	1									1															
東郷町																									
豊明市				1					1	1	2	1													
豊橋市		14	7				1			15	7	5					5								
新城市							1			1															
設楽町																									
東栄町																									
豊根村																									
田原市		1								1															
みよし市			2	1						2	1														
豊田市			32	18						32	18		11				11								
半田市				5	1					5	1														
常滑市				2						2															
東海市				1						1															
知多市																									
阿久比町				2						2															
東浦町				2						2															
南知多町																									
美浜町				1						1															
武豊町				2						2															
大府市				1						1															
春日井市					11	1				12				1			1								
小牧市					3					3															
尾張旭市	1									1															
瀬戸市			1	1						1	1		1	1			2								
一宮市	1					17	6			18	6														
稲沢市																									
犬山市					1	1				1	1														
江南市						1				1															
岩倉市																									
大口町																									
扶桑町																									
岡崎市									1	1															
蒲郡市							11			11				7			7								
豊川市		2	1				5	1		7	2	2		19			21								
幸田町							3			3															
津島市																									
愛西市								2		2															
あま市																									
大治町																									
蟹江町								3		3															
飛島村																									
弥富市	1									1															
安城市			1	1						2	1					15	15								
刈谷市										5	1														
西尾市							1			1	2														
碧南市				1						1	2														
高浜市																1	1								
知立市										3	1					1	1								
県外																									
不明				3	1					5	1														
計	28	17	8	36	21	21	1	16	1	19	6	23	2	7	18	4	185	43	1	7	12	2	26	17	65

ウ 参加年度（新規継続）

【学習支援】

地域	新規	継続	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017
名古屋	21	7	21	2	1	4					
豊橋	7	10	7	8	2						
豊田	20	16	20	11		4	1				
半田	6	15	6	3	4	4	1	2	1		
春日井	12	4	12	3					1		
一宮	14	5	14	3	2						
蒲郡	12	11	12	1	3	2	4	1			
愛西	4	3	4	2		1					
知立	7	11	7	4	4	3					

新規	継続
103	82
55.7%	44.3%
185	

エ 学習履歴

【学習支援】

地域	内訳	人数	中卒	高校中退	高校在学				高卒	その他 ※ ()内は外国にルーツをもつ者
					全日制	定時制	通信制	不明		
名古屋	参加者	28	3	15	1		3	1	5	高認試験合格済 4、不明 1
	内外国ルーツ	0								
豊橋	参加者	17	2	6			1	2	6	中学校在学中 5(5)、大学もしくは短大卒業 1
	内外国ルーツ	8	1	1			1		5	
豊田	参加者	36	3	7	18		2		6	中学校在学中 3、大学 1、スリランカの学校10年生修了 1(1)、不明 1(1)
	内外国ルーツ	21	2	2	15				2	
半田	参加者	21	7	5			3	4	2	専門学校卒 2
	内外国ルーツ	1	1							
春日井	参加者	16	3	8		1	3		1	中学校在学中 1
	内外国ルーツ	1		1						
一宮	参加者	19	5	7	2		3		2	中学校在学中 1(1)、本国で中学中退 1(1)
	内外国ルーツ	6	4						2	
蒲郡	参加者	23	4	3	3	3	4	1	5	中学校在学中 3、専門学校卒業 1、大卒 1、その他 1
	内外国ルーツ	2			2					
愛西	参加者	7	1	3	1		1		1	中学校在学中 1
	内外国ルーツ	0								
知立	参加者	18	1	1		4	4		3	小学校在学中 2、高等専修学校中退 1、大学在学中 2
	内外国ルーツ	4				3	1			
	参加者	185	29	55	25	8	24	1	10	33
	内外国ルーツ	43	8	4	17	3	2	0	0	9
			8	4						31

年度	地域数	参加者	中卒	高校中退	その他
R7	9	185名	29名:15.7%	55名:29.7%	101名:54.6%
R6	9	192名	30名:15.6%	53名:27.6%	109名:56.8%
R5	9	206名	33名:16.0%	58名:28.2%	115名:55.8%
R4	9	189名	27名:14.3%	54名:28.6%	108名:57.1%
R3	8	167名	28名:16.8%	42名:25.1%	97名:58.1%
R2	7	122名	23名:18.9%	31名:25.4%	68名:55.7%
R1	5	85名	19名:22.4%	23名:27.1%	43名:50.6%
H30	3	52名	7名:13.5%	25名:48.1%	20名:38.5%

【日本語学習支援】

地域	人数	中卒	高校中退	高校在学				高卒	その他
				全日制	定時制	通信制	不明		
名古屋	1							1	その他
豊橋	7		2					1	4 海外の4年生大学卒業 1、ベトナムの短期大学卒業 1、夜間中学在学中 1、不明 1
豊田	12							12	中学校在学中12
春日井	2			1				1	中学校在学中 1
蒲郡	26	6	1					3	16 フィリピンの高校を休学中 1、小学校在学中 1、中学校在学中 5、大学卒 1、ベトナムの大学卒業 4、フィリピンの大学卒業 2
知立	17	2	3					12	小学校在学中 3、中学校在学中 1、母国で中学卒業 2、母国で高校中退 4、母国で9年生 1、不明 1
	65	8	6	1				4	46
		8	6						51

オ 外国にルーツをもつ者（国籍）

【学習支援】

地域	人数	アルジェリア	アルゼンチン	インド	インドネシア	ウガンダ	韓国	ギニア	スリランカ	タイ	台湾	中国	ネパール	パキスタン	フィリピン	ブラジル	ブルキナファソ	ペルー	ベトナム	ボリビア	ミャンマー	モンゴル	ヨルダン	不明
		アフ	中南	アジア	アジア	アフ	アジア	アフ	アジア	アジア	アジア	アジア	アジア	アジア	アジア	中南	アフ	中南	アジア	中南	アジア	アジア	中東	
名古屋	0																							
豊橋	8		1													3	4							
豊田	21	1	1			2		1	2			1	1		5	5		1				1		
半田	1															1								
春日井	1															1								
一宮	6			1									4		1									
蒲郡	2															2								
愛西	0																							
知立	4														1	1		1					1	
合計	43	1	2	1	0	2	0	1	2	0	0	1	5	0	7	13	0	6	0	0	0	2	0	0

【日本語学習支援】

地域	人数	アルジェリア	アルゼンチン	インド	インドネシア	ウガンダ	韓国	ギニア	スリランカ	タイ	台湾	中国	ネパール	パキスタン	フィリピン	ブラジル	ブルキナファソ	ペルー	ベトナム	ボリビア	ミャンマー	モンゴル	ヨルダン	日本	不明
		アフ	中南	アジア	アジア	アフ	アジア	アフ	アジア	アジア	アジア	アジア	アジア	アジア	アジア	中南	アフ	中南	アジア	中南	アジア	アジア	中東	アジア	
名古屋	1											1													
豊橋	7														4	1		1	1						
豊田	12								1			1	1		1	4		2				2			
春日井	2								1						1										
蒲郡	26									1	2	1		1	12	1		1	7						
知立	17				2			2	2						9	2									
合計	65	0	0	0	2	0	0	2	4	1	2	3	1	1	27	8	0	4	8	0	0	2	0	0	0

北米	中南米	アジア	中東	ヨーロッパ	オセアニア	アフリカ
北	中南	アジア	中東	欧州	大洋	アフ
0	21	18	0	0	0	4

北米	中南米	アジア	中東	ヨーロッパ	オセアニア	アフリカ
北	中南	アジア	中東	欧州	大洋	アフ
0	12	51	0	0	0	2

④ 本事業利用後における状況の変化について（学習支援）

ア 高卒認定試験受験・高等学校受験・就職活動及び結果（それぞれの取組人数）

地域名		名古屋	豊橋	豊田	半田	春日井	一宮	蒲郡	愛西	知立	合計
学習相談：学習支援事業 利用者数	延べ人数	215	268	414	240	120	195	321	83	217	2,073
	実人数	28	17	36	21	16	19	23	7	18	185
①高等学校卒業程度認定試験を受験		2	5	1	8	6	4		4	1	31
②高等学校（入学：再入学：編入学試験）を受験			5	3	3			7	3		21
③就職活動を実施					11	3	1	10		3	28
①高等学校卒業程度認定試験に合格 ※科目合格含む。		1	4	1	3	2	4		1	1	17
②高等学校（入学：再入学：編入学試験）に合格			5	3	1			7	2		18
③就職活動を実施					2	1	1	6		1	11

イ 高卒認定試験受験・高等学校受験・就職活動及び結果（取組内訳人数）

地域名		名古屋	豊橋	豊田	半田	春日井	一宮	蒲郡	愛西	知立	合計	
学習相談：学習支援事業 利用者数	延べ人数	215	268	414	240	120	195	321	83	217	2,073	
	実人数	28	17	36	21	16	19	23	7	18	185	
①高等学校卒業程度認定試験を受験	②高等学校（入学：再入学：編入学試験）を受験	③就職活動を実施	2	10	4	19	7	4	12	7	4	69
○			2	5	1	5	4	3		4	1	25
	○			5	3	1		2	3			14
		○			10	1		5		3		19
○	○				2							2
○		○			1	2	1					4
	○	○						5				5
学習相談：学習支援事業利用者のうち、高等学校卒業程度認定試験、高等学校を受験した者及び就職活動を実施した者の割合(%)		7.1	58.8	11.1	90.5	43.8	21.1	52.2	100	22.2	37.3	
①高等学校卒業程度認定試験に合格 ※科目合格含む。	②高等学校（入学：再入学：編入学試験）に合格	③就職	1	9	4	6	2	4	9	3	2	40
○			1	4	1	3	1	3		1	1	15
	○			5	3	1		3	2			14
		○			2			2		1		5
○	○					1	1					2
	○	○						4				4
○	○	○										
学習相談：学習支援事業利用者のうち、高等学校卒業程度認定試験、高等学校に合格した者及び就職した者の割合(%)		3.6	52.9	11.1	28.6	12.5	21.1	39.1	42.9	11.1	21.6	

## ウ 高卒認定試験について

		2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計	合計
出願者数	名古屋	2	4	10	10	9	8	8	10	4	65	243
	豊橋	5	2	3	1	2	8	7	6	2	36	
	豊田	1	4	4	4	7	6	5	3	2	36	
	半田	2	5	4	5	4	1	2			23	
	春日井	6	7	7	12	7	4	2			45	
	一宮	4	2	3		1	2				12	
	蒲郡		3	2	3	1	1				10	
	愛西	4	3	2	4	2					15	
	知立	1									1	
	合計	25	30	35	39	33	30	24	19	8		
全科目合格者数	名古屋	1	3	5	5	5	3	4	3	2	31	108
	豊橋	3		2			4	3	4	1	17	
	豊田	1	3	1	2	3	2	2	1	1	16	
	半田	2	4		3	1		2			12	
	春日井	2	3	3	5	3	1				17	
	一宮	3					1				4	
	蒲郡		1		2	1					4	
	愛西		2	2	1	2					7	
	知立											
合計	12	16	13	18	15	11	11	8	4			
一部科目合格者数(延べ)	名古屋		3	4	4	4	4	3	4	2	28	116
	豊橋	3	1	4	2	3	5	3	2	2	25	
	豊田		2	4	1	5	4	1	1	2	20	
	半田		2	3		5	1				11	
	春日井		3	2	3	5	5				18	
	一宮	1	2								3	
	蒲郡		1	3	1						5	
	愛西	1	1	1	2						5	
	知立	1									1	
合計	6	15	21	13	22	19	7	7	6			
一部科目合格者数(実数)	名古屋		1	3	2	2	4	3	4	2	21	82
	豊橋	1	1	1	1	2	4	3	1	1	15	
	豊田		1	3	1	4	3			1	13	
	半田		1	3		3	1				8	
	春日井		3	2	3	4	2				14	
	一宮	1	1								2	
	蒲郡		1	2	1						4	
	愛西	1	1		2						4	
	知立	1									1	
合計	4	10	14	10	15	14	6	5	4			
好転者	名古屋	1	4	8	7	7	7	7	7	4	52	190
	豊橋	4	1	3	1	2	8	6	5	2	32	
	豊田	1	4	4	3	7	5	2	1	2	29	
	半田	2	5	3	3	4	1	2			20	
	春日井	2	6	5	8	7	3				31	
	一宮	4	1				1				6	
	蒲郡	0	2	2	3	1					8	
	愛西	1	3	2	3	2					11	
	知立	1									1	
合計	16	26	27	28	30	25	17	13	8			

※ 好転者＝全科目合格者＋一部科目合格者（実数）

## エ 高卒認定試験について（各地域別）

### <名古屋>

	2024	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	2	4	10	10	9	8	8	10	4	65
全科目合格	1	3	5	5	5	3	4	3	2	31
一部合格（延べ）		3	4	4	4	4	3	4	2	28
一部合格（実数）		1	3	2	2	4	3	4	2	21

### <豊橋>

	2024	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	5	2	3	1	2	8	7	6	2	36
全科目合格	3		2			4	3	4	1	17
一部合格（延べ）	3	1	4	2	3	5	3	2	2	25
一部合格（実数）	1	1	1	1	2	4	3	1	1	15

### <豊田>

	2024	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	1	4	4	4	7	6	5	3	2	36
全科目合格	1	3	1	2	3	2	2	1	1	16
一部合格（延べ）		2	4	1	5	4	1	1	2	20
一部合格（実数）		1	3	1	4	3			1	13

### <半田>

	2024	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	2	5	4	5	4	1	2			23
全科目合格	2	4		3	1		2			12
一部合格（延べ）		2	3		5	1				11
一部合格（実数）		1	3		3	1				8

### <春日井>

	2024	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	6	7	7	12	7	4	2			45
全科目合格	2	3	3	5	3	1				17
一部合格（延べ）		3	2	3	5	5				18
一部合格（実数）		3	2	3	4	2				14

### <一宮>

	2024	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	4	2	3		1	2				12
全科目合格	3					1				4
一部合格（延べ）	1	2								3
一部合格（実数）	1	1								2

### <蒲郡>

	2024	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数		3	2	3	1	1				10
全科目合格		1		2	1					4
一部合格（延べ）		1	3	1						5
一部合格（実数）		1	2	1						4

### <愛西>

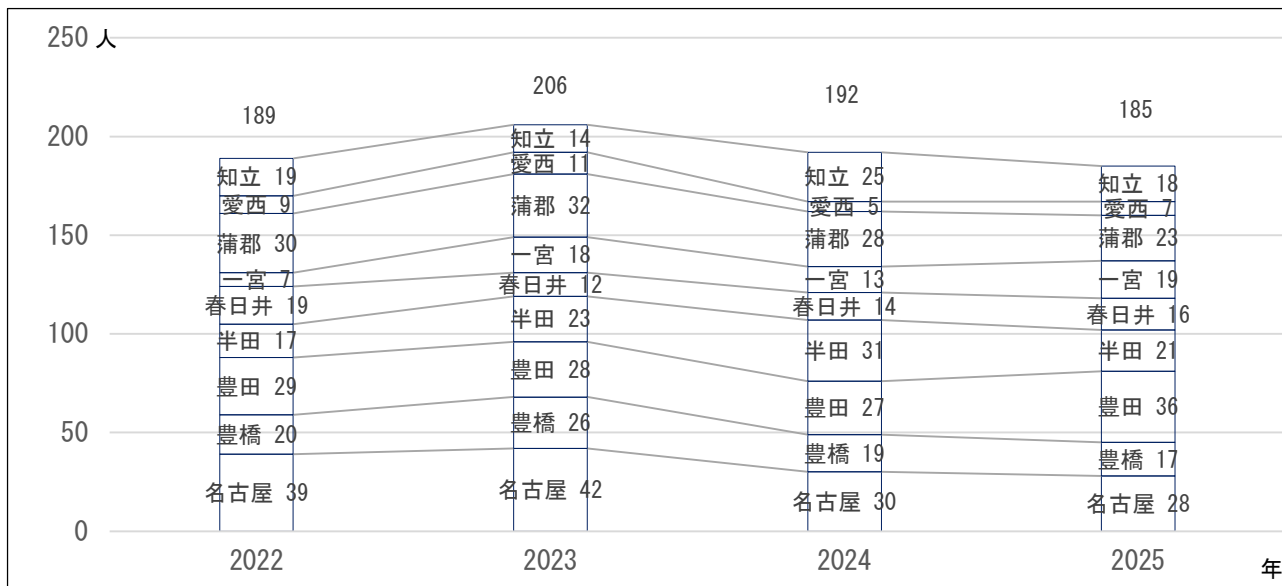
	2024	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	4	3	2	4	2					15
全科目合格		2	2	1	2					7
一部合格（延べ）	1	1	1	2						5
一部合格（実数）	1	1		2						4

### <知立>

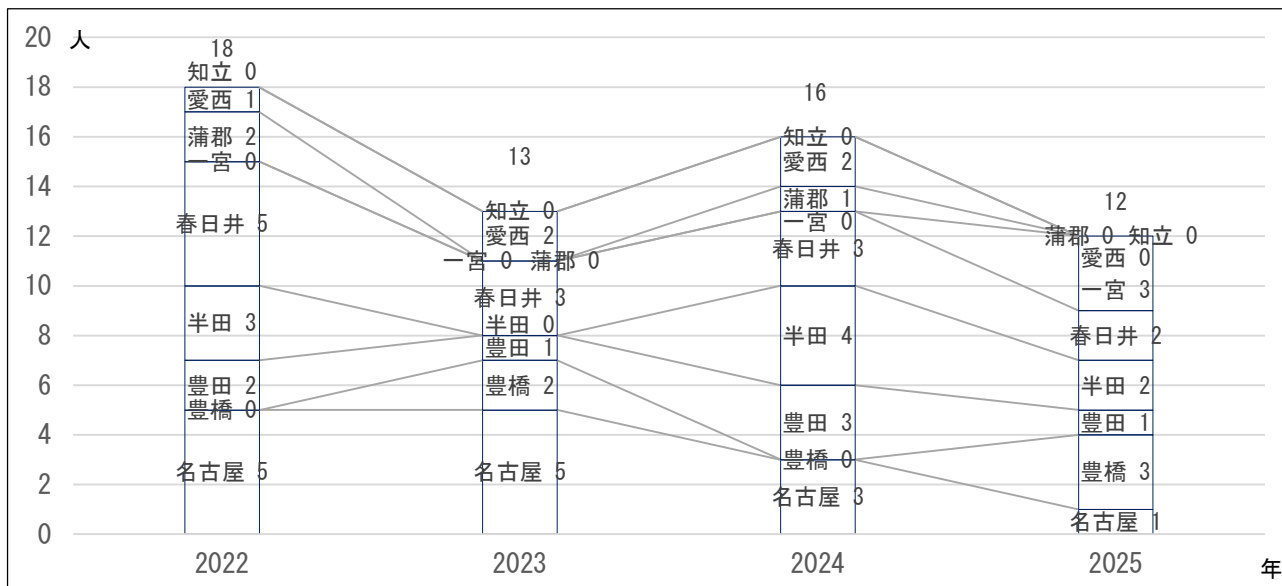
	2024	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	計
出願者数	1									1
全科目合格										
一部合格（延べ）	1									1
一部合格（実数）	1									1

<高卒認定試験：グラフ（9地域拡大後）>

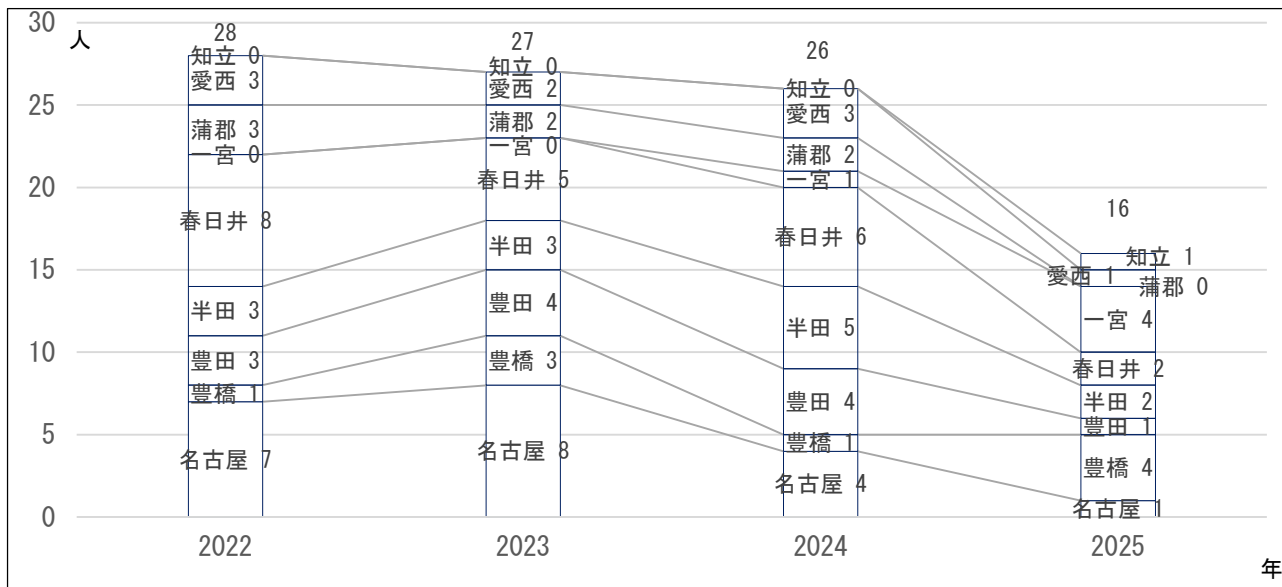
ア 学習支援参加者



イ 高卒認定試験・全科目合格者数



ウ 高卒認定試験・好転者（全科目合格＋一部科目合格）数



### 3 2025（令和7）年度「若者・外国人未来塾」の実施状況

#### 名古屋地域（学習支援）

#### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

##### ア 参加の経緯

インターネット（県サイト・団体サイト）のチラシ、他機関（行政、専門支援団体・機関等）からの紹介、図書館・公民館等でのチラシの入手

##### イ 状況、ニーズ等

- ・高校を中退して本事業に参加、高認に合格して次の進学・就労などの希望進路を実現したいと考えている（主に10代～20代）
- ・不登校や疾病等で十分に学校教育を受けられなかったが、学び直して高認への合格や、高校への入学を考えている（主に30代以上）
- ・障害等で普通科高校のカリキュラムで学ぶことは難しかったが、高認に合格し、大学等への進学を目指したいと考えている

#### 2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
ありがたい（20代）	平日も15～17時だと助かります。	参加した方が良いです。
短時間学習でも、前に進んでいるので、参加するのが楽しみです。（60代）	もう1日増やしてもらえたら、ありがたいと思います。	まずは気楽に参加してみてください。

#### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	13人 ・大学生，大学院生（8人） ・元教員（3人） ・法人スタッフ（2人）
スタッフの募集方法	・スタッフによる知人・後輩等の紹介
スタッフ確保のための方策	・スタッフ同士のコミュニケーション（現在のスタッフが続けられる仕組みづくり） ・大学等への広報 ・大学の実習等での受け入れ

#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ	・公共機関、図書館	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ

地域協議会・ 研修等	・若者支援団体等	各団体での実践を経由した参加者の紹介等
インターネット	・県サイト、団体サイトでのチラシ公開	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ

## 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規参加者や、高卒認定受験後等のタイミングで学習相談を丁寧に行うことで、個別の学習ニーズの把握や、進路選択の情報提供などに努めた。</li> <li>・「居場所」としての利用ニーズ対応を第一義的な目的とはしていないものの、継続して参加する利用者にとって安心して過ごすことができるようなコミュニケーションを意識している。生活課題や人間関係等についての開示や質問を受けて、関係機関等を紹介することもある。</li> <li>・本人が無理なく学習を継続することができるペースや、学習への取り組み方についての助言を行うことができた。</li> <li>・学習が進めやすいよう、既製の教材を渡すだけでなくポイント等をまとめたオリジナルな教材を渡すなどスタッフによる独自の取り組みを行うことができた。</li> </ul>
---

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続参加者の高認受験、希望進路の実現に向けたフォロー</li> <li>・継続参加者にとっての「居場所」としての機能</li> <li>・スタッフ同士の参加者の状況や支援についての情報共有の充実化</li> <li>・以前のスタッフ経験者による対象者の紹介や連携</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回あたりの参加者数の減少、参加者の中での高認受験者の減少</li> <li>・「居場所」ニーズへの対応と、「学習支援」ニーズの混在による対応の線引き</li> </ul>

## 7 運営者の声

<p>10代・20代の高校中退者にとっては、通信制高校への転学・入学が近年大きな選択肢の一つとなっており、本事業への参加者や高認受験者の減少の一つの要因ではないかと考えている。高校を中退してまもない参加者には、通信制高校と高認との違いや費用などの説明を心がけ、希望する進路の実現につながるよう相談対応を心がけている。</p> <p>また今年度は、現在は他機関等に勤務する本事業のスタッフ経験者から利用者の紹介が複数件あり、本事業の認知や効果的な利用を促す上で重要であると考えている。</p> <p>インターネット等で情報を見つけた参加者には、高認合格後の進学や就労等に関する情報や支援機関とのつながりが十分でないケースが見受けられ、適切な助言や紹介を行うことが大切である。そのために、支援スタッフも関連領域の専門支援団体・機関に関する情報を得たり、研修を行ったりすることが必要であると考えている。</p>
--

## 参加者ピックアップコラム

(団体名) あいち・子どもNPOセンター

### Aさん (10代 女性)

高2で中退し、区役所からの紹介で本事業に参加。約2か月間継続して参加し、自宅学習にもしっかり取り組んだ。残り2科目の試験に合格し、高認資格を得ることができた。専門学校への進学予定している。

## 豊橋地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・隣接市町村の国際交流協会から、または市内の中学校による紹介
- ・利用者の保護者間のネットワーク、過去の利用者が家族や友人に紹介するなどの口コミによるネットワーク
- ・保護観察官からのリファアーなど

#### イ 状況、ニーズ等

高卒認定試験の合格を目指す利用者の他、その先の大学受験を目指す利用者や、高校への入学を目指す中学生などを支援している。定時制や通信制の高校に入学したいという希望者も在籍している。海外にルーツをもつ利用者も多く、家族間でも母語が異なる場合が多い。そのため家族と利用者本人のニーズが異なる場合に、把握が困難になりやすい。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
英語がもっと上手になれる。 … (10代)	毎日やってほしい	来てほしいです。
自分と似たような子たちと集まっているので、安心して過ごせて嬉 しいです。… (10代)	なし	日本語がわからない人や、 高卒認定などが欲しい人など に絶対来て欲しいです。
多くのことを学ぶことができました。ご指導のおかげで高認に合格 しました。… (20代)	なし	環境はとても良いです。先 生は責任感が強い。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	5人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元教員（1人）</li> <li>・社会人（2人）</li> <li>・法人スタッフ（2人） ※当該事業においては業務委託契約</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は公募による新規募集は行わなかった</li> <li>・法人の別事業に従事している者1人について、本事業においては業務委託契約を締結し、スタッフとして配置した</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の課題として、必要に応じた人材確保の方法を検討してい る</li> </ul>	

#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	・市内の高校等（市立高校・工科高校・ゆずりは学園・定時制通信制合同説明会、市役所の関係機関など）	高校から生徒の紹介があった。
地域協議会	・市内関係機関（学校教育課・生活福祉課・子ども若者支援センター「ココエール」・保護観察所など）	保護観察所からの紹介があった。

#### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の終了時にスタッフ間で、進捗状況を確認することに努めている。また、今後の支援方法などについても情報を共有している。</li> <li>・単に学校の勉強の範囲を支援するだけでなく、今後どのような進路を考えているかなどの相談も行うようにした。</li> <li>・内向的な利用者に関しては、家族面談も含めてどのような支援が必要であるかを支援スタッフと共に検討した。</li> </ul>
---

#### 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5人中3人が、高卒認定試験に合格した。うち1人は母語が日本語ではない。</li> <li>・中学校にほとんど通っていない生徒が高校に行く意思を示したため、中学校の進路指導担当者と話し合いを設け、受け入れを行った。</li> <li>・高校を中退した生徒を受け入れて、高卒の合格を目指すための学習を支援している。</li> <li>・過去の利用者が自身の生活環境の変化に伴い、本事業を再利用するケースが見られた。</li> <li>・市内の高校などの関係機関から、受け入れに関して相談があった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続利用者や、数年ぶりに参加した利用者が多く、新規利用者確保や利用回数の少ない利用者への支援の充実が今後の課題となっている。</li> <li>・開所時間と場所が限定的であるため、講師も生徒も密集している状態。声が重なってしまうので、分散する方法を探る必要がある。</li> <li>・高卒認定試験を途中で断念した利用者に対して、継続的な関わりが十分に行えなかった点が課題として残った。</li> <li>・家庭で日本語を用いない家族から、子どもの日本語学習支援を依頼されるケースがある。小学生である場合は対象外であるため、他の団体を紹介することになっているが、リファー先のネットワーク構築が十分とはいえない。</li> </ul>

#### 7 運営者の声

<p>意思表示が強くない利用者に対して、どのように本人のニーズを聞き出し、適切に対応すべきか、検討の重要性を認識した一年だった。本人に学習をする意欲があるのか、それとも半ば無理やり勉強させられていると感じているのか、数回の会話でははっきりとしない場合が多々見受けられた。</p>
---

継続的に参加していただいた中で、ある利用者は、体が弱いために休みがちになるが意欲はあるということがわかった。こういった利用者に関して、学習支援以外の何らかの福祉事業等社会資源を利用しながら並行して未来塾を利用して頂けることが望ましいが、思うように進まなかった。今後も、本人の意思を尊重しながら継続的な支援を行っていきたいと考えている。

他方、家庭で日本語を話さないために漢字の理解が追いつかず、会話はともかく教科書がほとんど読めないという利用者も参加している。家族には未来塾での学習が望まれているが、本人に学習や進学などの意欲が弱く、意義を感じることもできない段階であると思われる。他地域にならい、何らかの催しを行って利用者の気持ちを緩和していくことを目標としたい。

## 参加者ピックアップコラム

(団体名) 一般社団法人GENTEAL

### Sさん (20歳 女性)

Sさんは外国にルーツをもっています。国籍は日本ですが、外国人の母と共に3歳の頃から外国で生活をしていました。家庭では日本語を話さないため、日本語が母語ではありません。15歳の時に日本に帰ってくる予定でしたが、コロナ禍による移動困難により帰国を断念し、そのまま滞在国の高校に入学しました。しかし、複雑な事情により、高校卒業の資格が得られませんでした。日本に帰国してから大学を目指すことになりましたが、その前に高卒認定試験を受験しなければなりません。言語の壁を超えることは容易ではありません。勉強熱心ではありましたが、学習に必要な用語は不慣れでした。それでも、もともと勉強が得意であったSさんは、次々に言葉を覚えていきました。スタッフ一同は「国語」が難しいのではないかと考えていましたが、意外にも最後まで突破に苦戦したのは「歴史」でした。本人にとっては不慣れなカタカナ用語が多い歴史という科目は最大の難関だったようです。今年度の第2回試験で最後まで残っていた歴史に合格したことを嬉しそうに報告してくれたことが印象に残っています。現在は大学の入学に向けて学習を行っています。日本国籍なので留学生枠が使えませんし、作文を要する帰国子女枠で入学することも現実的ではありません。そこで彼女は一般入試枠での合格を目指しています。私たち支援スタッフは、今後とも困難に挑戦し続ける彼女に伴走することができれば幸いであると感じています。

## 豊田地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・「(NPO法人)トルシーダ」からここで勉強することを勧められた。
- ・高校教育で十分理解できなかった内容についての学習支援を受けたい。
- ・将来の希望を叶えるために弱点の補強を考えていたところ、同じように不登校の経験をもつ人から存在を教えてもらった。

#### イ 状況、ニーズ等

- ・故国での高校卒業資格を得る前に来日したため、日本の高校卒業資格を得て大学進学を目指したい。
- ・外国ルーツで日常会話は問題ないが高校での授業理解に困難があり、学習支援を受けたい。
- ・高校を中退したが、大学進学を見据え高卒認定を取得したい。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
苦手な教科の成績を上げたくて通い始めたが、勉強に集中する場所ができた (10代)	部屋が広くなるといい	いつも熱心に教えてもらえる
高校に行きたくて通い始め、勉強ができるようになった (10代)	先生についてもらうとうれしい	特になし
先生からの支援と友達の手助けがもらえる	特になし	ここに来ると勉強ができるからよい

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	7人 ・教員OB（3人） ・大学生（4人）
スタッフの募集方法	・ロコミ ・未来塾受講生OB・OG ・教員OBへの呼びかけ
スタッフ確保のための方策	・インターンシップ生などの学生 ・関係機関との合同会議での周知

#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ	・ 公共施設	特になし
関係団体への周知依頼	・ 国際交流協会関連団体 ・ 青少年福祉関係機関	相談事例あり
HP	・ 一般	特になし

#### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受験を終えた人たちから譲られた教科書や参考書を誰もが使えるようにしている。</li> <li>・ 学習合間の“ささやかなお楽しみ”としてクリスマス会を開催した。</li> <li>・ 関係機関との定例会議で参加者の取組みの様子や出席人数について報告し、運営状況の共通理解を図った。</li> </ul>
--

#### 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受講生の目標に応じ、スタッフが分担して支援することができた。</li> <li>・ 不登校生徒の学習遅れを補うことができた。</li> <li>・ 高校を退学したのち高卒認定を受験し合格することができた。大学進学を目指し勉強することができた。</li> <li>・ 学習支援を受けてきた高校生1名が大学に合格することができた。</li> <li>・ 受講生が口コミで友達や兄弟を誘ってくるが増えた。</li> <li>・ 大学進学が決まった受講生がスタッフとして参加してくれることになっている。</li> <li>・ 時に応じて受講者同士が互いに教えあい、分からないことを解決できる場を作っている。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係機関からの紹介で参加受付をしたが、見学止まりで実態のある支援につながらないケースもある。</li> <li>・ 受講生に対し、指導者の人数が慢性的に不足している。</li> <li>・ 「情報」に詳しいスタッフがいない。</li> <li>・ 基礎学力のない受講生の指導に十分な時間がかけられない。</li> <li>・ 高卒認定合格後の進路の選択、学力、学費などの悩みへの対応。</li> <li>・ 「多様な学び」を実現せねばならない状況が迫っており、対応できるよう人材ならびに人材育成の場を確保してほしい。</li> </ul>

#### 7 運営者の声

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本語力不足のために学習支援を希望する受講生が多く、高卒認定合格を目標に通う参加者は少なくなっている。</li> <li>・ 外国ルーツの方が日本でのキャリア開拓を目指して参加するケースが増えている。</li> </ul>
--

## 参加者ピックアップコラム

(団体名) 豊田市青少年センター

### Tさん (10代 女性)

中学2年生頃に来日し言葉も十分でない中、その壁を越えて高校進学を果たし、今は大学進学を目指して勉強中。

### Mさん (10代 男性)

3年前に来日し、当講座参加以前に自力で高卒認定を取得。航空エンジニアになる夢の実現を目指し大学進学に向けて熱心に勉強中。

### Nさん (10代 女性)

高校を退学したのち、高卒認定試験で単位不足教科の受験支援を希望し通うようになった。試験は合格し、次のステップとして大学進学を目指し引き続き勉強中。

## 半田地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・学校を退学した際に、学校の先生から案内された
- ・市役所の福祉課の人に紹介された
- ・親がホームページを見つけて連れてこられた
- ・サポステの担当者から案内された

#### イ 状況、ニーズ等

- ・高卒認定試験の対策をしたい
- ・定時制高校を中退して以降、ひきこもるようになった。家では特になにもしてなくて、ただ将来のことは漠然と不安で仕方なかった。普段通っていた児童館の担当者から案内をもらい行ってみた。高卒認定試験の対策を始めようと思った。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
高卒認定試験の対策をどう進めて良いか全く分からなかったので、聞ける人がいて良かった。 (10代)	サポステの出張先でも受けられるようにしてほしい。	勉強と思うと続かないので気楽に始めたらいいと思う。
家にパソコンが無いので練習している。だいぶ使えるようになった。(20代)	Officeのバージョンをもう少し上げて欲しい。	自宅でも学習しないと追いつかないので合格目指す人は自己学習が必須。
家で勉強できないので来ていますが、場所があって助かる。	少し遠い。	やっておくといいことを教えてもらえるので進め方がわからない場合に使えます。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	3人 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生（1人）</li> <li>・元教員（1人）</li> <li>・塾講師経験者（1人）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の学校教育課相談</li> <li>・大学への求人情報依頼</li> <li>・サポステの利用者の中で可能な人物</li> </ul>
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉的要素が必要であり、配慮や特性の知識が必要なために福祉大学からのアルバイト求人を出し、結果、インターンシップのような感じで学生も学んだことを生かせる現場となっているため、実践経験を積み将来に生かして利用者の成長のみでなく、支援員の成長も大切にしている。</li> <li>・サポステ職員にも関わってもらい、スムーズな高卒認定受験後のサポートや勉強の目的の確認など行ってもらえるように、新職員にも発達障害の研修に参加して知識をつけてもらう。</li> </ul>

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町の教育委員会、学校教育課</li> <li>・市町の生活困窮を扱う窓口</li> <li>・市町の社会福祉協議会</li> <li>・ハローワーク</li> <li>・保健所の相談窓口</li> <li>・児童相談所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSWからの相談</li> <li>・医療機関からの相談</li> <li>・学校教育課からの相談</li> <li>・社会福祉協議会からの相談</li> <li>・生活援護課からの相談</li> </ul>

### 5 取組の工夫

<p>① 定期面談で気持ちや悩みを聞き取り 支援の軸として、定期的な個別面談を実施しています。就職活動の進捗確認だけでなくその時々での気持ちや不安、迷い生活面での困りごとなどを丁寧に聞き取ります。</p> <p>② 手詰まり時に無理に継続させない 活動が思うように進まない時、無理に「続けること」だけを目標にしません。例えば応募が続いて自信を失っている面接が負担になっている、生活リズムが崩れているといった場合は、一度立ち止まることも選択肢にします。</p> <p>③ サポステプログラムへの参加誘導 コミュニケーション講座、ビジネスマナー講座、就活準備セミナー、グループワーク個別面談で見えてきた課題に応じて、プログラムを具体的に提案</p>
--

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・事業の周知が進み、支援機関より少しずつ問合せ等の連絡をいただくことが増えてきた</li><li>・高卒認定試験をきっかけとして就労（バイト）に踏み出す方が出てきた</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・学習支援に参加される方が継続しにくいという点</li><li>・スタッフの育成（学習スキル）のみでなく支援者スキルの育成が課題</li></ul>

## 7 運営者の声

本年度、全体の参加者の中から高卒認定試験を受ける人の割合は昨年度よりも減少していた。一人一人の状況をみると体調を崩されたり、精神的に落ち込んでしまうことで継続にならなかったり、長期のお休みをするなどが多く安定して参加することが難しい状況の方が目立った。人によっては学習面でなく生活面や就労面でも本人と向き合う機会が出てくるが、本事業のみでの対応は難しいことに加え、他機関との連携が必要になることも多々あった。

おそらく今後はさらにこの傾向が強まることから運営側としても対応力を上げることと、社会資源の活用をさらに進めていく必要があると感じた。

### 参加者ピックアップコラム

（団体名） NPO法人ICDS

#### Aさん（20代 男性）

専門学校を中退後、約8年間ひきこもりの状態が続いていた。家庭でのDVがあり、強いストレスを感じながら過ごしてきた。その後、役所につながったことをきっかけに、知多地域若者サポートステーション（知多サポ）を紹介され、支援がスタートした。現在は定期的な個別面談を行いながら、生活リズムを整え、外出の機会を増やすことを目的として本事業に参加している。この学習支援は勉強そのものが目的というよりも、「決まった時間に起きる」「自宅以外の場所で過ごす」といった生活リズムの再構築する段階的な取り組みとして利用している。その結果、今では家庭での時間を以前よりも落ち着いて過ごすことができ、自立や就労のことを考え始めることができるようになってきた。

## 春日井地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・家族、知人からの紹介
- ・保護観察所からの紹介
- ・学校の先生やスクールソーシャルワーカー（SSW）からの紹介
- ・サポステからの紹介
- ・自治体相談機関、担当課からの紹介
- ・愛知県教育委員会担当課のホームページを見て
- ・SNSを見て

#### イ 状況、ニーズ等

- ・高校中退後、高卒認定資格を取得し、大学進学を目指している。
- ・高校進学を目標に学習教室に参加している。
- ・学び直しを目的として学習教室に参加している。
- ・高卒認定資格取得後も、大学進学を目指し、学習教室に参加している。
- ・中学校在学中で不登校傾向にあり、学習機会の確保を目的として参加している。
- ・学校の授業についていけるように学習支援を求めている。
- ・進路はまだ決めていないが、まずは学力向上を目指して参加している。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
とても分かりやすかった。こんなにみっちり教えてもらったことはなかった。短い期間だったがありがたかった。（10代）	満足です。特にありません。	高校を中退したとしても、恥ずかしいことではない。ここからまた進みたいと思う人は、高卒認定を受けて、自分が目指している道を歩んでほしい。
すごくよかった。算数を勉強したことが、仕事につながった。これまで勉強する機会がなかったから、こういう場があってありがたかった。（20代）	開催時間がもう少し早いと良い。	ここは学校とはちがう。自分のペースに合わせてくれる。
自分だけでは勉強できなかった。参加してよかった。（10代）	参加するのに交通費がかかってしまう。	参加してほしい。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	10人 ・日本語教師（1人） ・社会人（8人） ・大学院生（1人）
スタッフの募集方法	・サポステからの紹介 ・近隣の大学へのチラシ配布
スタッフ確保のための方策	・サポステへの広報、周知、チラシの配布 ・近隣の大学や地域の団体への呼びかけ

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村の相談窓口</li> <li>・保健所の相談窓口</li> <li>・春日井地域協議会の参加団体</li> <li>・高齢者介護居宅支援事業所</li> <li>・春日井若者サポートステーション</li> <li>・SSW</li> <li>・社会福祉協議会</li> <li>・ハローワーク</li> <li>・子ども食堂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシ配布と合わせて、事業説明を行った。相談窓口から、対象者へチラシを配布いただき、相談や利用につながったケースがあった。</li> <li>・他自治体の生活困窮者自立支援法に基づく学習支援事業より、学習教室につながった事例も見られた。</li> </ul>
SNS	・X（旧 Twitter）での情報発信	

### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の情報を共有するため、支援スタッフ同士で情報共有の時間を設けている。</li> <li>・オンライン上の記録表を活用し、参加者の状況や支援内容を共有している。</li> <li>・初回面談や学習時の様子を踏まえ、一人ひとりに合わせた教材を準備し、個別支援を行っている。</li> <li>・高卒認定資格取得後に大学や専門学校への進学を目指す参加者が増加していることから、進学情報や受験情報について、可能な範囲で情報提供を行っている。</li> <li>・参加者が自宅でも学習に取り組めるよう、教材や学習方法について検討し、必要に応じて助言を行っている。</li> <li>・本人の将来や希望について、複数の支援スタッフで共有しながら支援方針を検討する機会を設けている。</li> <li>・長期欠席が続く参加者に対しては、プレッシャーにならないよう配慮しながら、定期的に近況確認を行い、関係が途切れないよう努めている。</li> </ul>
---

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

<p>成果</p>	<p>【支援スタッフ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度 高卒認定試験 合格者2人となった。</li> <li>・高卒認定資格取得後も進学を目指す参加者に対し、支援スタッフ間で情報共有を行いながら支援方法を検討し、参加者の状況に応じた支援を実施することができた。次年度の大学受験に向けた継続支援につながっている。</li> <li>・継続的な関わりを通じて、利用者の表情の変化や前向きな姿勢が見られるようになった。</li> </ul> <p>【運営者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習教室の参加者数は前年度より増加した。学校、SSW、若者サポートステーション、支援機関等からの相談をきっかけに参加につながるケースが増加している。</li> <li>・中学生や外国籍の利用者を中心に、学習会への参加や相談につながるケースが見られ、継続的な関わりをもつことができた。</li> <li>・継続参加を通じて、学習面の向上だけでなく、気持ちの安定や表情の変化が見られる利用者もあり、安心して過ごせる居場所としての役割を果たしていると考えている。</li> <li>・少人数体制を活かし、利用者一人ひとりの状況に応じた柔軟な対応を行うことができています。</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援の目的の多様化への対応 学習会に参加する目的が「居場所」「進学」「学び直し」など多様化しており、学習面に限らないニーズへの対応が求められている。個々の状況や目的に応じた支援方法について、引き続き検討と工夫が必要である。</li> <li>・高卒認定資格取得後を見据えたサポート体制の充実 高卒認定取得後の進学・就労準備や生活面の支援について、学習支援事業単独では対応が難しい場面がある。関係機関との連携を強化し、取得後を見据えた支援体制の構築が課題である。</li> <li>・継続参加へのつなぎ 学習会に数回参加した後、継続的な参加につながらないケースが見られる。参加時点で進路や将来の目的が明確でない場合も多く、学習支援の目的が定まる前に参加が途切れしてしまう状況がある。初期段階での関わり方や動機づけの工夫が求められる。</li> <li>・支援スタッフの確保および支援体制の強化 参加者の増加やニーズの多様化に伴い、継続的に関わることのできる支援スタッフの確保が課題である。また、支援内容の属人化を防ぎ、組織として継続的に支援できる体制づくりが求められている。スタッフ間での情報共有や研修の充実を図るとともに、支援経過を適切に共有し、円滑な引き継ぎが行える体制の強化が必要である。</li> </ul>

## 7 運営者の声

令和7年度は、学校やSSW、若者サポートステーション等の関係機関からの紹介を通じて参加者数が前年度より増加した。学習の機会を十分に確保できていない若者や、安心して過ごせる居場所を必要とする若者の存在が、あらためて明らかになった一年であった。

令和7年度高卒認定試験では2名が合格し、進学を目指す継続的な支援につなげることができた。学習支援を通じて安心して過ごせる場としての機能も一定程度果たしており、進学後も顔を出してくれる卒業生の姿から、本事業が参加者にとっての居場所として定着しつつあることを実感している。

一方で、体調面の不安やアルバイトとの両立の難しさを抱える参加者は以前から見られ、今年度は学習目的が明確でない段階での参加や、不登校傾向にある利用者の増加もあった。そのため、居場所として定着する前に参加が途切れてしまうケースもあり、継続参加につなげる工夫が課題である。

地域協議会では、制度や相談窓口は存在するものの利用につながりにくい現状や、初めての場に足を運ぶ心理的ハードルへの配慮の必要性が共有された。また、外国ルーツの若者については、日本語や就労との接続の難しさが課題として示され、関係機関との連携を意識した支援の流れづくりの重要性が確認された。さらに、学習会の様子や参加後の進路のイメージが伝わるチラシや事例紹介が必要との意見を受け、情報発信の在り方について見直しを進める必要があると認識している。

本事業では、学習支援を軸としながら、参加者が自らの将来を主体的に考えられるよう支えることを大切にしている。「学ぶ」「働く」といった進路の選択だけでなく、一度立ち止まり、自分の状況や希望を整理する時間も含め、複数の可能性を示している。学習は将来につながる基盤であり、その過程で自己理解を深め、納得のいく進路選択につなげることが重要である。

今後も、学習の機会確保と居場所としての機能を両立させながら、関係機関との顔の見える連携を深め、地域における学習支援の拠点として継続的な支援体制の充実に努めていきたい。

### 参加者ピックアップコラム

(団体名) 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

#### Aさん(10代 男性)

中学校卒業後、海外での進学を経験したが、その後帰国した。帰国後は進路について悩みながらも、高卒認定資格を取得し、大学進学を目指したいとの思いから学習支援に参加した。

参加当初は、環境の変化やこれまでの経験に対する戸惑いもあり、精神的に落ち込んでいる様子が見られた。学習支援では、本人の希望科目を中心に学習を進めるとともに、進学に向けた相談にも応じた。必要に応じて他の学習機会も活用しながら、継続して学習に取り組める環境を整えた。

学習教室への参加を重ねる中で徐々に表情が和らぎ、笑顔が増えていった。現在は将来を見据え、前向きに学習に取り組んでいる。

## 一宮地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・通っていた中学や高校の先生の紹介
- ・市内や近隣市町村の行政機関からの紹介
- ・県のホームページを見て
- ・通院している病院の先生の紹介
- ・市のSSWの勧めで見学

#### イ 状況、ニーズ等

- ・事業実施6年目を迎えて、地域協議会の会議を積み重ねることで、学習支援センターの認知度が少しずつ高まり、市の様々な行政機関や外郭機関からの紹介が増えてきた。
- ・高校を中退する前に次の支援先につなげる対象として、学習支援センターに通っているSSWが紹介するケースが増えた。次回の地域協議会には参加依頼をすることを提案します。
- ・2学期末になっての高校中退者の相談ケースが増えている。ただ、相談後、通うことにつながらないケースもある。その理由を検討する必要があるかもしれない。
- ・現地の中学を卒業して来日し、日本語は全くできなく、ひらがなやかけ算九九から始めているケースが今年もある。ただ、今年は今春4月から開校する夜間中学への進学を目指している。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
高校を中退しましたが、大学進学を希望しているので、高卒認定を取るために参加しました。参加してみても分からないところを親切に教えてくれるところが良いと思いました。（10代 男性）	特になし	インターネットで検索していた時に見つけて良さそうと思ったから参加しました。是非、来てください。
地域の国際交流の人から紹介してもらいました。目的は高校に入ることです。（10代 外国籍の男性）	特になし	先生が優しく、勉強も良くわかります。外国人の方も是非、参加してください。
私は勉強のことで人に聞くことが苦手だけどスムーズに問題を解くことができます！（10代）	特になし	

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	5人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現役大学生（1人）</li> <li>・日本語教室のスタッフ（1人）</li> <li>・退職教員（1人）</li> <li>・社会人（2人）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の学習支援スタッフからの紹介</li> <li>・元の職場への依頼や声かけ</li> <li>・以前のスタッフへの勧誘</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知人を介しての勧誘</li> <li>・一宮市市民活動支援センター内での募集チラシの掲示</li> </ul>	

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
案内チラシ 地域協議会メンバー	・一宮市役所とその外郭団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県や市のHPを見て参加</li> <li>・青少年センターからの紹介</li> <li>・市や高校のSSW同伴で見学</li> </ul>
案内チラシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣市町村とその外郭団体</li> <li>・地域の不登校支援団体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣市教委からの紹介</li> <li>・支援団体のインスタに教室を紹介してもらう</li> </ul>
案内チラシ	・一宮市立図書館や近隣の図書館	・チラシを見ての見学者あり

### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの間で、利用者の性格、この教室に通うきっかけなどの情報の共有に努めている。</li> <li>・利用者さんとスタッフの距離感を大事にしている。特に、対人関係に不安を持つ利用者には深入りし過ぎないように気を配っている。</li> <li>・利用者の担当者を概ね決めておく。</li> <li>・利用者が自分のスマホを使って学習することを推奨している。</li> <li>・外国籍参加者の増加に伴い、日本語指導の経験のあるスタッフを確保した。</li> <li>・温かい雰囲気を作る。</li> </ul>
---

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理系のスタッフを確保でき、数学や理科の支援要望に対応できるようになる。</li> <li>・日本語指導の経験のあるスタッフが増えたことで、外国籍参加者への対応がしっかりでき、継続して参加している。</li> <li>・地域協議会も回数を重ね各機関とのつながりも深まり、相談しやすくなった。結果、いろいろな機関からの紹介が増えてきた。</li> <li>・近隣市町村へのチラシ配布によって、地域以外の市町村からの利用者が増えている。</li> <li>・地域の不登校支援の団体からの問い合わせが増え、インスタで教室の紹介をされる。</li> <li>・中退する前後に、通っている高校の教師やSSWの見学や紹介が増えた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の高校への情報提供が不十分である。今年、見学に来てくれた高校の教師やSSWの皆さんも「初めて知った」と言われた。</li> <li>・スタッフと利用者が親しくなったが故に深入りし過ぎてしまうことがある。双方の距離感が難しく、スタッフ間で利用者の情報共有をしっかりとる必要がある。</li> <li>・相変わらずスタッフの確保には頭を悩ませている。</li> </ul>

### 参加者ピックアップコラム

（団体名） NPO法人 あいち・子どもNPOセンター

おじさんだけど頑張ってます！（40代 男性）

私は2025年に失職しハローワークに通っていたのですが、そこで高卒認定試験勉強会の取組について教えてもらいました。

恥ずかしながら私は高校を中退しており、就活のプラスになればと軽い気持ちで参加したのですが、そこには真剣に指導して下さる先生方（講師の方々）がおられ、いつしか夢中で勉強に取り組むことができていました！

先生方の指導のお陰で6科目受験し、6科目とも合格することが出来ました。この調子で残りの科目の合格を目指したいと思います。

最後に、学び直しに年齢は関係ありません！少しでも気持ちがあるならば是非、この勉強会にチャレンジしましょう！私も最後まで頑張ります！！

## 蒲郡地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

定時制・通信制高校合同説明会、紹介（中学校、サポートステーション、サポートステーション利用者、学習支援員、親の勧め、親の会）

#### イ 状況、ニーズ等

- ・定時制、通信制高校に在籍しているが、学習と進路相談がしたい。
- ・高校を中退した、中退を考えているので次の目標を決めたい、別の高校に転入したい。
- ・進路未定で中学校を卒業したが、高校進学のために勉強したい。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
英語がわかりやすい。(10代)	特になし	特になし
勉強を教えてもらい、進路のことなども相談できた。(10代)	特になし	分かりやすい説明で勉強できました。
受験の勉強ができた。(10代)	特になし	自分の学力に合わせて教えてくれる。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	3人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塾講師経験者（教員免許保有）（1人）</li> <li>・元役員（MBA経営学修士、教員免許保有）（1人）</li> <li>・若者自立支援経験者（1人）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポステスタッフからの紹介</li> <li>・チラシを見て活動に興味を持って応募</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育OBの知り合い</li> <li>・サポステスタッフの知り合い</li> </ul>	

#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布または訪問による説明等 (来所も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蒲郡市における子ども・若者地域支援協議会関係者</li> <li>・豊川市における子ども・若者地域支援協議会関係者</li> <li>・蒲郡市内図書館</li> <li>・豊川市内図書館及び生涯学習センター</li> <li>・蒲郡市内の中学校（7校訪問）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各機関、団体の責任者や担当者に事業の周知ができた。</li> <li>・参加者と進路相談をしているなかで関係する学校や機関と連絡を取り合い、連携して支援をするようになった。その際、各学校や機関の方々へ本事業の周知ができた。</li> </ul>
地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者未来応援協議会 (豊川市、蒲郡市) 2か所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会を通じた事業の周知、情報共有や担当者との顔合わせができた。</li> </ul>

#### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者一人一人に学習記録のファイルを作り記録することで、支援員間の情報共有を円滑にしている。</li> <li>・学習テーブルはパーテーションで仕切られているので、集中して学習できる環境になっている。</li> </ul>
---

#### 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<p>(支援スタッフ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の参加者が全日制、定時制、通信制高校へ進学した。</li> <li>・2020年から母親のみの相談であった高校中退者が自ら参加するようになった。</li> <li>・進路未定で中学校を卒業、または高校を中退した参加者が将来の目標を定め、高校受験を決めて学習に取り組むようになった。</li> </ul> <p>(運営者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所や中学校など、関係機関との連携が取れた。</li> <li>・学習支援と就労支援が同じ場所なので、就労の必要な参加者は仕事も見つけることができた。</li> </ul>
課題	<p>(支援スタッフ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援の内容が多様化（高校、大学受験、学び直し、居場所など）していて、支援方法の工夫、支援員の情報共有、スキルアップが必要だが、そのための時間が確保できない。</li> </ul> <p>(運営者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校卒業認定試験の受験者がいなかった。更なる周知が必要。</li> </ul>

## 7 運営者の声

市の教育委員会、各中学校の不登校生徒の支援は拡充されてきて、校内支援センターなども設置されつつあり「在学中の居場所」が増えている。卒業後の進路は決まったものの、心配な生徒もいる。本人が選択した進路を安定して続けていけること、また困った時にサポートできるように、今後も学校関係機関との連携をしていきたいと思います。

### 参加者ピックアップコラム

(団体名) 青少年自立援助センター北斗寮

#### Yさん (10代 男性)

中学校を進路未定で卒業したYさんは、サポートステーションを利用して令和6年2月から就労相談をしていました。不登校経験やアルバイトが続かないなど、自分に自信がもてない状態で精神的に落ち込んでしまうこともありました。それでも就労支援の面談には来ることができていました。支援員と話をするうちに、高校への進学の可能性を本人が感じるようになり、同じ場所の学習支援にも参加するようになりました。秋からは受験対策の学習を始め、2月には志望校を受験します。今後も就労支援員と共に見守っていきたいです。

## 愛西地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・以前、学習会に参加していた利用者
- ・知人、家族からの紹介
- ・相談窓口からの紹介
- ・自立援助ホームからの紹介

#### イ 状況、ニーズ等

- ・中学校在学中に不登校傾向があり、高校進学を目標として学習機会の確保を希望している。
- ・国家資格の受験に向け、高卒認定資格の取得を目指している。
- ・将来保育士になることを希望し、高卒認定資格の取得を目標としている。
- ・定時制高校への再進学を希望している。
- ・高卒認定資格を取得し、就職に活かしたいと考えている。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
わかりやすかった。（10代）	会場が遠い。	参加してみしてほしい。
支援員の方の教え方がわかりやすかった。（20代）	もう少し、開催時間が早いと助かります。	教えてくれる人が優しい。何でも相談できるので、参加してみしてほしい。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	4人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元教員（1人）</li> <li>・社会人（3人）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポステからの紹介</li> <li>・法人内で募集</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポステでの募集</li> <li>・大学等にチラシの掲示依頼</li> </ul>	

#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布 事業説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村教育委員会</li> <li>・市町村の相談窓口、担当課</li> <li>・津島公共職業安定所</li> <li>・地域協議会の参加団体</li> <li>・津島若者サポートステーション</li> <li>・社会福祉協議会</li> <li>・愛西市立佐織中学校</li> <li>・子ども食堂</li> <li>・地域の福祉団体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシ配布と合わせて、事業説明を行った。相談窓口から、対象者へチラシを配布いただき、相談や利用につながったケースがあった。</li> <li>・市町村の教育委員会の中で事業周知をいただき、中学校でチラシを配布いただいた。</li> </ul>
SNS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・X（旧 Twitter）での情報発信</li> </ul>	

#### 5 取組の工夫

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習会終了後に、学習支援員によるミーティングを実施している。</li> <li>・ミーティングでは、個人情報に配慮しながら、学習状況や支援上の留意点、家庭状況等について情報共有を行っている。</li> <li>・集団参加が難しい方やシングルマザー等、会場への来所が困難なケースに対しては、パソコンやタブレットを活用し、オンラインによる支援を実施している。</li> <li>・初回面談や学習教室での様子を踏まえ、参加者の状況に応じた教材や資料を準備し、個別支援を行っている。</li> <li>・参加者が自宅でも学習を継続できるよう、教材や学習方法の検討を行い、必要に応じて助言を行っている。</li> <li>・長期欠席が続く参加者や卒業生に対して、定期的に近況確認を行っている。</li> <li>・高校受験に向けた作文指導や試験対策を実施した。</li> <li>・地域協議会において広報チラシについて意見をいただき、外国語版チラシを作成するなどの工夫を行った。</li> </ul>
---

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<p><b>【支援スタッフ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度 高卒認定試験において、一部科目合格者1人となっている。</li> <li>・不登校傾向の中学生を受け入れ、高校進学が決まり、無事卒業につながった。</li> <li>・参加者にとって安心できる居場所となるよう、学習支援に加え、日常的な対話も大切にしている。</li> <li>・高校再入学を目指す参加者に対し、基礎学力試験等の対策を実施し、2名が合格した。</li> </ul> <p><b>【運営者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛西地域では、送迎や移動の制約、就労等の事情により来所が難しい参加者が多い中、オンライン参加を取り入れることで学習機会および相談機会の確保につなげることができた。</li> <li>・少人数体制を活かし、参加者一人ひとりの状況を丁寧に把握しながら、継続的な関わりを持つことができています。</li> <li>・参加が不安定な利用者に対しては、自宅学習の方法提案や教材準備を行い、可能な範囲で受験支援を実施した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労や家庭事情、健康面、送迎手段の制約等により来所が難しい利用者が多く、参加者数が伸びにくい状況にある。</li> <li>・従来の広報手法では、就労世代や来所が困難な層へ十分に情報が届いていない可能性がある。</li> <li>・支援スタッフの確保および体制の安定化が課題である。</li> <li>・今後は、オンライン支援の活用や広報手法の工夫を進めるとともに、関係機関との連携を強化し、安定した支援体制の構築を図っていく。</li> </ul>

## 7 運営者の声

昨年度に比べ参加者数は増加している。体調面や育児、仕事などの事情により来所が難しい参加者に対しては、教材の郵送やオンラインによる支援を取り入れ、可能な範囲で学習機会の確保に努めた。来所型支援だけでは対応しきれないケースがある中で、柔軟な支援方法の必要性を改めて感じている。

今年度は高校進学を希望する参加者が3人おり、それぞれの状況に応じた学習支援および受験対策を行った。その結果、定時制高校および全日制高校に合格し、全員が無事進学につながった。継続的な関わりが成果につながったことは、大きな手応えである。

また、不登校傾向の参加者についても、学習支援員との関係を重ねる中で徐々に学習意欲の向上が見られ、進学について前向きに考えられるようになった。学習教室は、学習の場であると同時に、安心して過ごせる「第3の居場所」としての役割も果たしていると感じている。

一方で、相談には至るものの実際の参加につながらないケースも見られる。愛西地域協議会では、制度や窓口は存在するものの利用につながりにくい現状や、初めての場に足を運ぶことへの心理的ハードルが共有された。あわせて、支援を必要とする若者のいる場所へ出向くアウトリーチの視点や、支援者同士が顔の見える関係性を築くことの重要性について確認された。

これらを踏まえ、今後も学習機会の確保を軸としながら、地域の関係機関との連携をより一層強化し、支援の入口から接続までを意識した取り組みを進めていきたい。

## 参加者ピックアップコラム

(団体名) 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

### Aさん (20歳 女性)

Aさんは、自治体の相談窓口から学習教室につながりました。シングルマザーとして仕事と育児を両立しながら学習を続けています。昨年度から参加しており、今年度も継続して取り組んでいます。

参加当初は家族に子どもを預けて来所していましたが、毎回協力を得ることが難しい状況もあり、現在はリモートでの学習支援を継続しています。仕事や家事、育児に追われる中で欠席することもあります。自習にも取り組み、高卒認定試験では一部科目に合格しました。

Aさんは常に子どものことを第一に考えながら、自身の将来についても模索しています。学習支援では、学習内容だけでなく、仕事や家計、家族関係についての悩みにも耳を傾け、無理のない形で継続できるよう関わっています。悩みながらも一歩ずつ前に進もうとする姿が印象的です。

## 知立地域（学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・高校の先生が退学する生徒に紹介した。その子の友達で小中不登校の子が、一緒来所した。
- ・広域通信制高校に在籍、勉強が分からず。母が子若の相談窓口で、未来塾を知り、来所した。
- ・専修高校中退、高校卒業程度認定試験を受験中、母がネットで未来塾をみつけ、一緒に来所した。

#### イ 状況、ニーズ等

- ・刈谷東高校の通信制に入学したいので、入学の準備、入学後の勉強をみてもらいたい。
- ・通信制高校のレポートで、分からない教科や、分野があるので、それを教えてほしい。
- ・高卒認定の勉強を、ユーキャンを使いながら勉強をしているので、分からない所を教えてほしい。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
・先生達と一緒に考えてくれる。	・他の人たちとの交流がないので、できたらいいな。	・先生がたくさんいるので、いっぱい質問できる。
・未来塾に初めて行った時はどんどこかわからず、大丈夫かなと思っていました。実際通ってみると少人数の場所でゆったりとしていたので、大人数が苦手な私には、すごく良い環境だなと思いました。また先生方が自分に合った勉強方法を教えてくださると、緊張している私にすごく向き合ってください、ありがたいなと思っています。なかなか緊張がぬけないのですが、これからもここに通って勉強を頑張っていきたいと思っています。	・特にないです。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここはすごく少人数で、ゆったり勉強したい人におすすめです。</li> <li>・緊張して人とうまく話せなくても、先生方が1人1人に合った勉強法を教えてくださいます。毎回行く必要はないので、自分のペースで通うことができる素敵な場所です。</li> </ul>
・分からないところを分かりやすく教えてくれる。前よりもできるようになった。	・特になし。	・気軽に行きたい時に行けるので、皆さんも気軽に来るといいと思います。通信制の生徒もレポート作成に利用するといいと思う。

3 支援スタッフ ※日本語支援のスタッフと同じ、学習支援も場合によってはやります。

人数・スタッフの属性	12人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の支援員（5人）</li> <li>・元高校の教員（3人）</li> <li>・家庭教師の経験のある理系大学院卒（1人）</li> <li>・臨床心理士、元高校教諭（1人）</li> <li>・コーディネーター（2人）</li> </ul>
スタッフの募集方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOの会員の知人を通じて、人材を探す</li> <li>・この事業のスタッフの知人を通じて、人材を探す</li> </ul>
スタッフ確保のための方策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・退職された教員の人脈を頼りに、知人にあたる</li> <li>・日本語支援のスタッフの人脈を頼りに、知人にあたる</li> </ul>

4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
パンフレット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町の若者支援の団体、子若の協議会の委員。</li> <li>・親の会主催の進路説明会の参加者。親の会の参加者</li> <li>・ぷらっとほ一むのメンバーが参加する各研修会、様々な会議の参加者。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットのデザインは評価されている。それを見ての参加者あり。</li> </ul>
SNS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・X（旧 Twitter）</li> <li>・Instagram での広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォロワー数→X：217人、Instagram：341人</li> <li>※見ている人数は増えている</li> </ul>
Webサイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぷらっとほ一むのWebサイトでの広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPOの活動に位置付けられ、HPを見た人たちに周知されている。</li> </ul>
公式ライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来塾の利用者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日程や連絡事項を、利用者に伝えやすくなった。</li> <li>・利用者から欠席の連絡が入るようになった。</li> <li>・スタッフと利用者の個別の連絡のやりとりができるようになった。</li> </ul>

## 5 取組の工夫

- ・ 支援者間での情報共有について工夫をしている。①利用者の情報については、スタディサプリを用いて支援者で共有している。②二か月に一回支援者間で、会議を行い、利用者の状況について、詳細に確認をしている。③毎回、利用者の活動状況を報告用紙にまとめ、進捗状況を確認できるようにしている。
- ・ 小学生から大学生まで、年齢の幅が広く、学習内容も多岐に渡っているため、充分に対応できるように準備している。
- ・ 楽しい雰囲気を出すようにしている。間違ってもいいよという雰囲気づくりをしている。
- ・ 何に困っているか（学習内容なのか、日本語の理解不足なのかなど）を見極めるため、利用者と話し、よく相手の様子を見ている。
- ・ 寄り添う姿勢を忘れないようにしている。支援者が話すよりも利用者が話せるように待つ。
- ・ 利用者が話したくなるような雰囲気づくり、関係づくりをする。
- ・ 利用者が考える時間をなるべく多く設けるようにしている。
- ・ 言葉で通じない時は、翻訳ソフトを使っている。
- ・ 少しでも楽しめるように、支援者が興味ある分野を絡めて教えている。
- ・ 時間がある時には、トランプ等ゲームをして、交流している。楽しんで未来塾に行きたくなくなるような気持ちになれるように、考えている。

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 通信制高校に通う利用者のレポート作成のサポートを行った。課題の提出を期限内のすることができた。定期テスト、追試などにも対応し、無事に進級した。</li><li>・ 高校卒業程度認定試験で、一部科目に合格した。</li><li>・ 大学受験の勉強のために未来塾に来ていた利用者の気持ちを丁寧に聴取し、困りごとにはアドバイスをした。無事に車校に行き、運転免許を取得できた。またガソリンスタンドのアルバイトも自分で申し込み、アルバイトを始め、現在も働いている。志望大学の先生に会う機会を作り、その子がやっていることを見てもらい、高評価を受けた。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学習支援を継続的に利用できる利用者が少ない。もともとアルバイトを継続にやっていると、家族や他の支援機関でサポートを受けている等がないと、なかなか継続的な利用ができない。対人関係への不安、家庭でエネルギーがもらえない等の背景があると想像される。</li><li>・ 刈谷市での未来塾の場所が変わって、2年が終わろうとしているが、利用者が少しずつ減ってきている。机やいすががちりちりとしていて、居場所的な機能を持ちにくい感じがある。利用できる時間も短く、忙しい感じがある。</li></ul>

## 7 運営者の声

- ・ スタッフの先生方は、丁寧に利用者へ接して細やかな、指導をしてくださっていて、それにはとても感謝している。利用者を増やし、もっと定着できるようにしていくには、学習の支援以外に、学校や学習塾、相談等の外部の支援機関と連携や、保護者へのアプローチが必要だと想像するが、そのための時間や労力が、未来塾の予算だけでは、確保するのが難しいので、悩ましいところである。

## 名古屋地域（日本語学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

図書館等のチラシを見ての参加や、知人・友人による紹介。

#### イ 状況、ニーズ等

- ・簡単な日常会話には支障がないが、読み書きや学習言語としての日本語を活用することに不安や抵抗を抱えている10代の参加。高校に通いながら本事業に参加しているケース。
- ・結婚を機に来日し、十分なつながりや日本語学習の機会がないケースもある。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
特になし		

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	13人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生，大学院生（8人）</li> <li>・元教員（3人）</li> <li>・法人スタッフ（2人）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフによる知人・後輩等の紹介</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ同士のコミュニケーション（現在のスタッフが続けられる仕組みづくり）</li> <li>・大学等への広報</li> <li>・大学の実習等での受け入れ</li> </ul>	

### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共機関、図書館</li> </ul>	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ
地域協議会・研修等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者支援団体等</li> </ul>	各団体での実践を経由した参加者の紹介等
インターネット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県サイト、団体サイトでのチラシ公開</li> </ul>	他団体等とつながりのない参加者のきっかけ

### 5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・N5～N2レベルのテキストを揃え参加者の状況に応じて活用するほか、小学校レベルの漢字や簡単な文章など、日本語話者で読み書きの支援を必要とするニーズにも対応できる体制</li> <li>・外国にルーツをもつスタッフによる日常生活等の相談・雑談等にも対応</li> </ul>
--

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	・外国にルーツをもつスタッフ等による外国語対応や、相談への対応
課題	・ニーズの掘り起こし、本事業で対応可能な範囲の明確化・充実化 ・タブレット端末・オンライン教材等の活用 ・チラシや、情報提供についての工夫

## 7 運営者の声

国際交流協会などと連携・情報共有しながら、ニーズにあった教室の紹介や、併用しながら利用できるよう促していきたい。学習支援利用者の中に、外国にルーツをもつ参加者が含まれていることもあることから、日本語支援との間で柔軟な行き来ができるよう支援に努めたい。

## 豊橋地域（日本語学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

市役所の学校教育課からの紹介

国際交流協会とつながりがあるスタッフを介しての参加

口コミ

#### イ 状況、ニーズ等

- ・夜間中学に入学したいという希望、高校に入りたいという希望がある。
- ・専門学校に入学したいという利用者に関しては、学習言語としての日本語のニーズが特に高い。
- ・他地域の「若者・外国人未来塾」と併用している利用者もいる。
- ・利用者自身の子どもが日本語を母語としているケースがあり、子どもの気持ちをもっとうまくくみ取りたいという希望などがある。
- ・親子で参加したいという希望もあったが、小学生の受け入れが難しいという課題がある。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
ここに来てから、話したり書いたりする力がつきました。 (翻訳済み)・・・(20代)	週に4日か5日開所してくれると助かります(翻訳済み)	親切に、わかりやすく教えてくれるので、ここに来ることをおすすめします。 (翻訳済み)
先生やクラスメイトと一緒に楽しみながら学んでいます。 (翻訳済み)・・・(10代)	特になし	わからないことがあって質問しても、先生は親切に答えてくれますよ。(翻訳済み)

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	4人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元教員（1人）</li> <li>・社会人（2人）</li> <li>・法人スタッフ（1人） ※当該事業においては業務委託契約</li> </ul>
スタッフの募集方法	・本年度は公募による新規募集は行わなかった。	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存スタッフの継続的な関与により体制を維持した。</li> <li>・今後の課題として、必要に応じた人材確保の方法を検討している。</li> </ul>	

#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	・市内の高校等（市立高校・工科高校）	高校からのリファーを受け、日本語が苦手な生徒の受け入れ
地域協議会	・市内関係機関（学校教育課・多文化共生国際化など）	来日して間もない生徒が学校教育課を通じて本事業につながった。
口コミ	・日本語教室利用者	市役所の日本語教室と併用している生徒がいる。

#### 5 日本語学習支援の内容について

<p>タブレットを用いて、「いろどり」という日本語学習ページを基軸に学習を行っている。</p> <p>【いろどり：<a href="https://www.irodori.jp/g.go.jp/">https://www.irodori.jp/g.go.jp/</a>】</p> <p>生活に必要な日本語のみならず、学習言語としてJ L P T（日本語能力試験）対策を行っている。</p> <p>英語が堪能なスタッフが在籍している。</p> <p>小学生の受け入れは行っていないため、他の支援機関を紹介している。</p>
--

#### 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな事情で日本に引っ越すことになった利用者は、友人がいない状態での生活が始まるが、日本語学習支援を通じて似たような境遇の利用者同士がつながり、孤独感などの減少に役立った。</li> <li>・日本語をほとんど話すことができない利用者に対する支援方法について、スタッフ間で一定の共通理解が形成されつつある。</li> <li>・継続的に参加する利用者が増えた。</li> <li>・蒲郡地域（豊川）の「若者・外国人未来塾」と併用して学習をしている意欲的な利用者がある。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の進捗状況が利用者ごとに大きく異なるため、同時支援が難しい。また、会話などを通じた学習の機会は可能な限り増やさなければならない。このため、他の日本語教室との併用が望ましいが、ネットワークの形成はまだ不十分である。</li> <li>・参加者がやや少ない。利用者数を拡大したいという思いはあるが、拠点となる部屋と支援時間の制約の中で複数の利用者をどのように支援するかが課題となっている。</li> <li>・開所の日時や場所などの都合で頻繁な来所が難しいという利用者に対して、「どのようにすれば日本語を自習していくことができるか」などを、情報提供できることが望ましいが、そこまで至らなかった。</li> </ul>

## 7 運営者の声

学齢期でありながら、家庭の事情で日本に移り住んだというケースが複数みられた。対象者の家族は最初に市役所の窓口で相談を行い、その後当団体の日本語学習支援につながるというケースが存在した。海外の高校に通っている途中で日本に移り住むことになり、利用者が自分自身の生活が目まぐるしく変化したことなどもあって、今後の目標を定めることができないケースも多い。本人は高校への再入学を望んでいるのか、あるいは就労を望んでいるのかなど、日本語学習と並行しながら意思を確認するなどの支援を行っている。当団体のスタッフの中には、市役所でおこなわれている日本語教室でボランティア講師をしている者もあり、日本語の会話に特に慣れる必要がある生徒に対しては、併用を勧めている。また、このスタッフを通して市の日本語教室と情報共有を行うことができた。

学齢期でない利用者に関しては、日本に長期間滞在しているが日本語の学習を行う機会が得られなかったという方もいる。家事などで忙しく、継続的に通えなくなるケースがあった。日本語学習支援に通って欲しいという気持ちもあるが、本人が隙間時間などを利用して自主的に日本語を学習できるような計画を手伝うことができれば幸いである。

### 参加者ピックアップコラム

(団体名) 一般社団法人GENTEAL

#### Bさん (23歳 女性)

Bさんは複雑なルーツをもっています。実際の国籍、長く暮らしてアイデンティティを持っている国、今住んでいる国が全て異なります。家族に日本をルーツにもつ方がいたために、わずかに日本語を使う機会はあったのですが、これまでの年月の多くを親戚の住んでいる南アジアで過ごし、当地の大学を卒業しました。大学ではコンピューターグラフィックを学んでいました。大学卒業後にすでに日本に引っ越していた家族と暮らすために、追いかけるよう到来しました。日本では専門学校に入り、さらにコンピューターグラフィックの学習を深めたいという意欲があるようです。Bさんは知人を通じて未来塾につながりました。彼女は豊川（蒲郡地域）の日本語学習支援を利用し、支援員を通じて豊橋地域の学習支援も利用するようになりました。わずかな日本語しか話せなかったのですが、2か所の地域を併用することで、ほぼ毎日日本語漬けの勉強を行い、継続的な学習により、日本語力は着実に向上していきました。今では基本的な会話であれば何の問題もなく話すことができます。しかし、進学を目指すとなるとまだ不十分であり、勉強に必要な用語をたくさん覚えなければなりません。他の日本語学習をしている利用者の方々とお互いに教えあいながら語学を習得していくBさんを見てみると、利用者同士で日本語によるコミュニケーション能力を向上させている様子が見られ、支援の成果が表れていると感じています。

## 豊田地域（日本語学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・家族に勧められた
- ・進学に向けての勉強がしたい
- ・成績を上げたい
- ・友達に誘われた

#### イ 状況、ニーズ等

- ・成績を上げて、高校に進学したい
- ・自立した生活ができる収入を得られるようになりたい。
- ・今後も日本で生きていくためには学歴が必須であり、本人が将来困らないような学力をつけさせたい(保護者)

### 2 参加者の感想・メッセージ

感 想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことが ない人に対するメッセージ
勉強のわからないところを聞きたくて受講。長く集中できないことが悩み。(10代)	特にない	分かりやすく説明してくれる
友達に誘われて通い始め、今は高校に入れるか不安。(10代)	部屋が広くなるといい	学校で分からなかったことが分かった。
成績を上げたくて参加。分からなかったことができるようになった。(10代)	家の近所に欲しい	本当に分かりやすい

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	7人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員OB（3人）</li> <li>・大学生（4人）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口コミ</li> <li>・未来塾受講生OB・OG</li> <li>・教員OBへの呼びかけ</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ生などの学生</li> <li>・関係機関との合同会議での周知</li> </ul>	

#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ	・公共施設	特になし
関係団体への周知依頼	・国際交流協会関連団体 ・青少年福祉関係機関	相談事例あり
HP	・一般	特になし

#### 5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語を一から指導できる人材がいないため、「日常会話は可能だが、日本語力不足で学校の教科理解に困難を抱えている」方を受け入れている。</li> <li>※日常会話に困難がある方は隣接する国際交流協会の日本語ボランティアグループを紹介している。そこからのフィードバックもある。</li> <li>・学校の宿題や定期テスト対策の勉強が中心になっている。</li> </ul>
---

#### 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の相談に対応し、各々にあった指導を実施することができた。</li> <li>・受講生個々と関わる中で本人の意欲を高めることができた。</li> <li>・学校で行われる定期考査の対策を行うことができた。</li> <li>・母国語が日本でない受講生の学習遅れを補うことができた。</li> <li>・同じような環境にある者同士なので、安定した気持ちで過ごすことができています。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語を話すことに困難がある受講生に対して、十分な指導をすることに困難がある。</li> <li>・小学校での“つまずき”の解消が進まない。特に系統的な教科において顕著である。</li> <li>・外国ルーツの受講生に日本語を理解させ、学校の教科内容も理解させること。</li> </ul>

#### 7 運営者の声

<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テスト時期は受講生が集中する傾向があり、限られた人員・予算の中で指導者の十分な配置に困難が生じている。</li> <li>・受講生にとっては「居場所」となっている様子が伺える。学習面だけでなく心理面においても支えになる場としても機能しつつある。</li> </ul>
---

### 参加者ピックアップコラム

(団体名) 豊田市青少年センター

#### Hさん他 (10代)

日本語については問題を感じないが、小学校教科の理解不足が影響し中学校教科の理解に困難が生じている。仲間同士での会話が弾み、時に学習に集中できないことも課題でもある。定期的に揃って参加しており、これまでなかった学習習慣が定着しつつある。

## 春日井地域（日本語学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

- ・家族、知人からの紹介
- ・学校教員やスクールソーシャルワーカー（SSW）からの紹介
- ・サポステからの紹介
- ・自治体相談機関からの紹介

#### イ 状況、ニーズ等

- ・中学校在学中で不登校傾向にあり、学習機会の確保を目的として参加している。
- ・学校の授業についていけるように学習支援を求めている。
- ・日本語を勉強したい。
- ・高卒認定資格の取得を目指している。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
参加してよかった。 ありがとうございました。(10代)	会場までが遠い。	参加してみしてほしい。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	10人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教師（1人）</li> <li>・社会人（8人）</li> <li>・大学院生（1人）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポステからの紹介</li> <li>・近隣の大学へのチラシ配布</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポステへの広報、周知、チラシの配布</li> <li>・近隣の大学や地域の団体への呼びかけ</li> </ul>	

#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村の相談窓口</li> <li>・保健所の相談窓口</li> <li>・春日井地域協議会の参加団体</li> <li>・高齢者介護居宅支援事業所</li> <li>・春日井若者サポートステーション</li> <li>・SSW</li> <li>・社会福祉協議会</li> <li>・ハローワーク</li> <li>・子ども食堂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシ配布と合わせて、事業説明を行った。相談窓口から、対象者へチラシを配布いただき、相談や利用につながったケースがあった。</li> </ul>
SNS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・X（旧 Twitter）での情報発信</li> </ul>	

#### 5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなの日本語シリーズ」を使用して、日本語学習の支援を行った。</li> <li>・参加者に合わせた日本語学習の情報提供を行った。</li> <li>・タブレットやパソコンの翻訳アプリを活用した。</li> <li>・学校教材や宿題への対応をした。</li> <li>・高卒認定試験に向けた日本語支援を行った。</li> </ul>
---

#### 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<p><b>【支援スタッフ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者に地域での日本語学習支援の情報を提供することができた。</li> <li>・日本語支援の進め方を確認することができた。</li> </ul> <p><b>【運営者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度より相談件数が増加した。</li> <li>・日本語教師資格を有する支援スタッフが継続して参加している。</li> <li>・自治体相談窓口からの問い合わせが増加した。</li> <li>・SSWの方に教室見学を実施し、具体的な支援内容を共有する機会を持つことができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教室のさらなる周知が必要。</li> <li>・問い合わせから参加につなげるアプローチ方法の工夫。</li> <li>・地域内の他日本語教室との連携強化。</li> </ul>

## 7 運営者の声

令和7年度は、学校教員やSSW、相談機関を通じて参加につながるケースが見られ、関係機関との連携の重要性を改めて実感した。一方で、参加者数は多いとはいえ、日本語学習を必要とする層に本事業が十分届いているとは言い難い状況である。

在学中で不登校傾向にある参加者や、生活状況の影響により継続的な参加が難しいケースも多く見られた。未成年の場合は、送迎や参加への理解など家族の協力が参加継続に大きく影響することもあり、家庭との連携の重要性を感じている。

全日制高校に在学する参加者の中には、学習に必要な日本語の理解が十分でないことから授業についていけなくなっている状況があり、履修科目に応じた日本語支援を行った。また、高校中退後の参加者は日本語支援と高卒認定試験に向けた支援を希望していたが、交通費や家庭状況の影響から継続参加のハードルが高い現実もある。

地域協議会では、日本語能力の不足が就労や進路選択の壁となっている実態や、制度があっても利用につながりにくい現状が共有された。日本語学習支援は単独で完結するものではなく、学習支援や就労支援、福祉的支援との連携の中で位置づけていく必要がある。

今後は、周知・広報の強化とともに、家庭や関係機関との連携を深め、参加しやすく継続しやすい環境づくりを進めていきたい。日本語学習を通じた進路・就労への接続を意識しながら、地域の支援拠点としての役割を果たしていく。

### 参加者ピックアップコラム

(団体名) 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団

#### Aさん (10代 男性)

高校を中退後、高卒認定資格の取得を目標に本事業へ参加していた。外国籍であり、日本語学習と希望科目の学習を並行して行っていた。

将来を見据え、高卒認定試験を通じて進路を切り開こうと真面目に学習に取り組んでいたが、会場までの交通費の負担や生活状況の変化もあり、参加が途切れている。就労についても継続が難しい状況があり、学習との両立に課題が見られた。

現在も状況を気かけながら、再び学習につながる機会を模索している。経済的・生活的課題を抱える若者に対して、継続的に関わり続けることの重要性を感じている事例である。

## 蒲郡地域（日本語学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

紹介（学習支援の参加者、家族、市役所の国際課・学校教育課、中学校、友人）

#### イ 状況、ニーズ等

10代のフィリピン人が参加者の大半を占めていたが、今年度はベトナム人がかなり増えた。多くは20代から30代の女性で、すでに働いていて子どもがいるが、日本での生活を安定させるために日本語の上達や日本語能力試験合格を目標に学んでいる。また、海外にルーツのある中学生で、日本語が不十分なために参加、中学校を卒業した後に高校受験に備え一年間日本語を勉強するため参加する人達もいる。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
日本語の文法と語彙を教えてもらった。(10代)	近くにあるといい。	何でも教えてくれる。
漢字が読めるようになって、会話もできるようになった。日本語でコミュニケーションが取れるようになって、とても助かっている(20代)	学習時間を増やしてほしい。1回1時間では短いので2時間にしてほしい。また、1週間に3、4日やってほしい。	この学習支援は役に立つのでぜひ家族や友達に勧めたいです。ここは学びやすいのでコミュニケーションスキルが上達しました。
日本語が全く分からなかったけれど、ここで勉強して平仮名と片仮名がよく分かるようになった。今では職場で同僚と日本語でコミュニケーションが取れている。(30代)	火曜日と水曜日にもやってほしい。	学習できる所を探している人にここをお勧めします。無料でいろいろなレベルの日本語が学べます。先生は親切で英語でコミュニケーションできます。

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	3人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元会社役員（MBA経営学修士、教員免許保有）（1人）</li> <li>・塾講師経験者（教員免許保有）（1人）</li> <li>・若者自立支援経験者（1人）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポステスタッフからの紹介</li> <li>・チラシ（活動に興味をもった）</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育OBの知り合い</li> <li>・サポステスタッフの知り合い</li> </ul>	

#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
チラシ配布または訪問による説明 (来所も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蒲郡市における子ども・若者地域支援協議会関係者</li> <li>・豊川市における子ども・若者地域支援協議会関係者</li> <li>・蒲郡市内図書館</li> <li>・豊川市内図書館及び生涯学習センター</li> <li>・蒲郡市内の中学校（7校訪問）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各機関、団体レベルの担当者に事業の周知ができた。</li> <li>・参加者と進路相談等をしているうちに、関係する学校や機関と連絡を取り合い連携して支援をするようになった。その際、学校や機関等の方々へ本事業の周知ができた。</li> </ul>
地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者未来応援協議会 (蒲郡市、豊川市) 2か所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会を通じた事業の周知、情報共有や担当者との顔合わせができた。</li> </ul>

#### 5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が増えたので、個別対応ができなくなり1人で2人の参加者に対応する時間帯もある。その時はなるべく同じ日本語レベルの参加者同士になるようにしている。</li> <li>・日本語能力試験を受けたい、日常会話を上達させたいなど参加者の希望に合わせて教材も選び学習を進めている。</li> <li>・タブレット端末は写真や動画を見て日本語を説明するのに使っている。また、使用する日本語学習テキストの会話を聞くのにも利用している。スタディサプリは学習レベルが高いので、利用には至っていない。</li> <li>・中学生も日本語学習の教材を使用して学んでいるが、学校の定期試験前などは本人の希望に応じて教科書の内容も学習している。</li> </ul>
--

#### 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<p>(支援スタッフ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外にルーツのある中学生が定時制高校に入学した。</li> <li>・2人が日本語能力試験を受験し、N4とN5に合格した。</li> <li>・日本語が上達し、仕事を心得働き始めた参加者がいる。</li> </ul> <p>(運営者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度よりも新規参加者が増えた。特に豊川市で増加した。</li> <li>・参加の経緯に関して、参加者からの紹介で日本語学習に参加する人が増えた。</li> <li>・中学校からの問い合わせが増え、本人が担任の先生や保護者と見学に来た。</li> <li>・関係機関との連携が取れた。</li> </ul>
----	---

課題	(支援スタッフ)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上達のために学習時間を増やしてほしいとの要望があるが、応えられていない。</li> </ul>
	(運営者)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員に限られるなか、参加者の増加にどのように対応していけばいいか。</li> <li>・中学校に入学をしようと考えて来日した人で、年齢が日本の高校1年になっていると、ほとんどの場合、入学は諦めるしかない。夜間中学に行こうと思っても4月まで何か月も待たないといけない。日本語学習の利用も週に2日程度と限られるため、本人の学習意欲はあるのに現状でやれることが限られて対応に悩む。</li> </ul>

## 7 運営者の声

外国にルーツをもつ方の日本語学習の利用が増加している。そのため、個別学習以外の支援も取り入れているが、今現在のスタッフの人員では対応が厳しい状況にある。

### 参加者ピックアップコラム

(団体名) 青少年自立援助センター北斗寮

#### Cさん (30代歳 女性)

2022年にベトナムから来日し、夫と3人の子どもと暮らしています。日中は子どもを保育園に預けてパートで仕事もしています。日本語学習支援に参加し始めた当初から、簡単な日常会話はできていました。しかし、市役所での手続きなどは通訳を介さないと難しいので、自分1人でできるようになるために日本語を上達させたいと、熱心に学習に取り組み、毎回分からないところは質問しています。そして、今年度初めて日本語能力試験を受験し、N4に合格することができました。家事、育児、仕事と忙しい中、日本語学習をがんばるCさんをこれからも応援していきたいです。

## 知立地域（日本語学習支援）

### 1 参加者の状況（どんな人が、どんなニーズをもっているのか）

#### ア 参加の経緯

安城市のスクールソーシャルワーカーからの紹介。ブラジルにルーツを持つ小4、5の兄弟、不登校。

全日制高校に入学するも学力についていけず、退学。高校の担任が同行して来所した。

フィリピンルーツ、姉が先生の紹介で来所し、その姉の紹介で、妹、従姉弟が来所した。

#### イ 状況、ニーズ等

- ・不登校で、日本語能力が低く、日本語の勉強と小学校の学習。楽しく勉強したい。
- ・刈谷東高校の通信制に入学して、高卒をとりたい。勉強のサポートをしてほしい。
- ・日本語の勉強と、中学の勉強をしたい。定時制高校に入学したい。

### 2 参加者の感想・メッセージ

感想	本事業に対する要望	この学習支援を受けたことがない人に対するメッセージ
・先生たちがとても優しく助けてくれる。	・数学と日本語の勉強を教えてください。面接の練習をしてほしい	・勉強をし続けたい人がのぞみを失いませぬように

### 3 支援スタッフ

人数・スタッフの属性	12人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の支援員（5人）</li> <li>・元高校の教員（3人）</li> <li>・家庭教師の経験のある理系大学院卒（1人）</li> <li>・臨床心理士、元高校教諭（1人）</li> <li>・コーディネーター（2人）</li> </ul>
スタッフの募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOの会員の知人を通じて、人材を探す。</li> <li>・この事業のスタッフの知人を通じて、人材を探す</li> </ul>	
スタッフ確保のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退職された教員の人脈を頼りに、知人にあたる</li> <li>・日本語支援のスタッフの人脈を頼りに、知人にあたる。</li> </ul>	

#### 4 参加者への周知・広報

広報方法	広報先	成果等
パンフレット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各市町の若者支援の団体、子若の協議会の委員。</li> <li>・親の会主催の進路説明会の参加者。親の会の参加者</li> <li>・ぷらっとほ一むのメンバーが参加する各研修会、様々な会議の参加者。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットのデザインは評価されている。それを見ての参加者あり。</li> </ul>
SNS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ X (旧 Twitter) ・ Instagram での広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フォロワー数→X : 217 人、Instagram : 341 人</li> <li>※見ている人数は増えている</li> </ul>
Webサイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぷらっとほ一むのWebサイトでの広報</li> </ul>	<p>NPOの活動に位置付けられ、HPを見た人たちに周知されている。</p>
公式ライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来塾の利用者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日程や連絡事項を、利用者に伝えやすくなった。</li> <li>・利用者から欠席の連絡が入るようになった。</li> <li>・スタッフと利用者の個別の連絡のやりとりができるようになった。</li> </ul>

#### 5 日本語学習支援の内容について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末は、翻訳やインターネットを活用して調べものをする際に活用する。スタディアプリは使用していない。</li> <li>・日本語能力検定試験（JLPT）の問題をやり、N2～N5までの試験合格を目指す。</li> <li>・最近「NPO多言語多読」の読み物を使い、やさしい日本語をたくさん読んでいる。</li> <li>・単語カードなどを使い、遊びを取り入れて、数人でゲーム化してやっている。</li> </ul>
--

## 6 成果と課題（支援スタッフ・運営者）

成果	<ul style="list-style-type: none"><li>・高校進学希望の学習者の数学と漢字、及びに日本語教育を行った。数学は確実に力をつけた。漢字は本人がアプリを使って調べるといった積極性を持った（両方）</li><li>・中学不登校の利用者が、ずっと未来塾には来所し、日本語や受験のための数学等の勉強をしている。最初は笑顔が見られなかったが、笑顔が増え、日本語の語彙や言い回しを積極的に使うようになった。</li><li>・中学3年の利用者に進学サポートをして、成果をあげた。二つの定時制高校を見学し、高校に行きたいという思いを親に伝え、担任の働きかけもあり、高校進学を親に認めてもらった。今は笑顔も見られ、受験のための勉強をしている。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>・継続的に通所できない利用者が多い。時々でも来所すればまだよいが、全く来なくなることも多い。</li><li>・来所しなくなる利用者の中には、家庭の事情（幼い弟妹の世話）という話もあり、保護者へのアプローチが必要だが、それができてない。システム化してない。</li><li>・利用者が母を通じてしか、なかなか会話できず、コミュニケーションの問題があった。この場合、自分は個人としてどうすれば良いか、グループ間でうまくシェアできず、スタッフの先生方、個々で悩んでいた。</li></ul>

## 7 運営者の声

<ul style="list-style-type: none"><li>・未来塾知立の管轄は碧海五市＋西尾市である。全部を合わせると県内では名古屋市に次いで、外国人が多い地域である。未来塾知立では、安城市内の不登校で外国人の小学生が利用登録をしたが、利用者はいなかった。安城市に限らず主な事業対象地域においては、外国人の小中学生が多く存在していると想像する。そういった子ども達への支援の一部を、未来塾知立が担えるといいと考えている。また、この碧海地区に近い将来、夜間中学が設立されることを切に願う。</li></ul>
---

#### 4 2025（令和7）年度「若者未来応援協議会」の実施状況

##### (1) 合同協議会について

###### 【合同協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和7年8月29日 (金)	愛知県 三の丸庁舎	<b>【報告】</b> (1) 令和6年度「若者・外国人未来応援事業」の実施概要及び成果と課題について (2) 令和7年度「若者・外国人未来応援事業」の現状について <b>【協議】</b> 「若者・外国人未来応援事業」における課題について (1) 「若者・外国人未来応援事業」におけるより効果的な連携について
情報交換会	令和8年1月15日 (木)	オンライン 配信拠点： 愛知県庁本庁舎	<b>【事例発表】</b> ・支援において工夫していること、学習支援・相談の中で困った事例など（特に、「支援員間の情報共有について」） <b>【情報提供】</b> ・高等学校卒業程度認定試験「情報」について
2	令和8年2月17日 (火)	愛知県 自治センター	<b>【報告】</b> 令和7年度「若者・外国人未来応援事業」の実施状況 (1) 令和7年度若者未来応援協議会 情報交換会 の報告 (2) 令和7年度の実績、成果と課題 <b>【協議】</b> (1) 「若者・外国人未来応援事業」における課題 ・利用者の複合的課題解決に向けた関係機関との協働について (2) 令和8年度「若者・外国人未来応援事業」

##### (2) 地域協議会について

###### 【名古屋地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和7年10月8日 (水)	愛知県図書館	<b>【報告】</b> (1) 令和7年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 「若者・外国人未来応援事業」の実施概要及び現在の課題について <b>【協議】</b> (1) 名古屋地域における「若者・外国人未来応援事業」の課題について
2	令和8年2月12日 (木)	愛知県生涯学習 推進センター	<b>【議題】</b> (1) 令和7年度「若者・外国人未来応援事業」実施状況（愛知県） (2) 名古屋地域「若者・外国人未来応援事業」の実施状況 (3) 名古屋地域「若者・外国人未来応援事業」の課題について

【豊橋地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和7年5月9日 (金)	豊橋市保健所・ 保健センター	<b>【報告】</b> (1) 県全体の「若者・外国人未来応援事業」について (2) 豊橋地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【協議】</b>
2	令和8年1月7日 (水)	豊橋市役所	<b>【報告】</b> (1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 豊橋地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【協議・意見交換】</b> (1) 外国にルーツを持つ若者及び保護者のニーズについて (2) 外国にルーツを持つ若者への支援のあり方及び関係機関との連携について

※ 豊橋地域協議会は「豊橋市子ども・若者支援地域協議会」の一部に位置付けて開催している。

【豊田地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和7年7月17日 (木)	豊田市 青少年センター	<b>【報告】</b> (1) 「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 「若者・外国人未来応援事業」豊田地域活動状況 <b>【情報交換】</b>
2	令和8年2月10日 (火)	豊田市 青少年センター	<b>【報告①】</b> ・令和7年度 若者・外国人未来応援事業 実施状況 ・令和7年度 若者・外国人未来応援事業 成果と課題 (まとめ) ・令和8年度「若者・外国人未来応援事業」について <b>【報告②】</b> ・令和7年度「若者・外国人未来応援事業」豊田地域成果報告 <b>【情報交換】</b>

【半田地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和7年9月9日 (火)	クラシティ	<b>【報告】</b> (1) 「若者・外国人未来応援事業」 全体の実施状況について (2) 「若者・外国人未来応援事業」 半田地域実施状況 <b>【協議】</b> (1) 各関係機関におけるの近況（若年支援活動や課題）について (2) 学習支援のニーズと対応について
2	令和8年2月27日 (金)	クラシティ	<b>【報告】</b> (1) 「令和7年度若者・外国人未来応援事業」（全体）の実施状況について (2) 「令和7年度若者・外国人未来応援事業」（半田地域）実施状況について <b>【議題】</b> (1) 令和8年度にむけて (2) 各機関におけるの近況について ・若年支援活動の近況、課題、本事業への期待すること 等

【春日井地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和7年8月7日 (木)	春日井市役所	<b>【報告】</b> (1) 令和7年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要、実施状況、他地域の取組について (2) 春日井地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【協議】</b> (1) 春日井地域における「若者・外国人未来応援事業」の連携、課題について 広報手段、手続き、対象となる方への情報提供について 「若者・外国人未来応援事業」における関係機関等の業務内容について
2	令和8年2月2日 (月)	春日井市役所	<b>【報告】</b> (1) 令和7年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要、実施状況、他地域の取組について (2) 春日井地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【協議】</b> (1) 若者・外国人未来応援事業における今年度の成果、課題及び次年度の計画について 若者・外国人未来応援事業の役割について

【一宮地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和7年10月21日 (火)	一宮市立 中央図書館	<b>【報告】</b> (1) 令和7年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要 (2) 「若者・外国人未来応援事業」の実施概要及び現在の課題について <b>【協議】</b> (1) 一宮地域における「若者・外国人未来応援事業」の課題について
2	令和8年2月10日 (火)	一宮市立 中央図書館	<b>【議題】</b> (1) 令和7年度「若者・外国人未来応援事業」実施状況（愛知県） (2) 一宮地域「若者・外国人未来応援事業」の実施状況 (3) 一宮地域「若者・外国人未来応援事業」の課題について

【蒲郡地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和7年9月17日 (水)	豊川市役所	(1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 蒲郡地域（豊川市）における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【協議】</b> (1) 中学校卒業後の進路未定者や高校を中退した若者に対して、各機関で可能と考えられる支援、若者支援について感じている問題点 (2) 各機関において、外国人の若者支援に関してどのような相談があるか (3) 本事業と各機関との間でどのような連携が考えられるか
2	令和7年11月17日 (月)	蒲郡市役所	(1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について (2) 蒲郡地域（蒲郡市）における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について <b>【協議】</b> (1) 中学校卒業後の進路未定者や高校を中退した若者に対して、各機関で可能と考えられる支援、若者支援について感じている問題点 (2) 各機関において、外国人の若者支援に関してどのような相談があるか (3) 本事業と各機関との間でどのような連携が考えられるか

※ 蒲郡地域協議会は「豊川市子ども・若者支援地域協議会」、「蒲郡市子ども・若者支援ネットワーク協議会」の一部に位置付けて開催している。

【愛西地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和7年7月31日 (木)	愛西市文化会館	<p><b>【報告】</b></p> <p>(1) 令和7年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要、実施状況、他地域の取組について</p> <p>(2) 愛西地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について</p> <p><b>【協議】</b></p> <p>(1) 愛西地域における「若者・外国人未来応援事業」の連携、課題について            広報手段、手続き、対象となる方への情報提供について            「若者・外国人未来応援事業」における関係機関等の業務内容について</p>
2	令和8年2月4日 (水)	愛西市文化会館	<p><b>【報告】</b></p> <p>(1) 令和7年度「若者・外国人未来応援事業」実施概要、実施状況、他地域の取組について</p> <p>(2) 愛西地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について</p> <p><b>【協議】</b></p> <p>(1) 若者・外国人未来応援事業における今年度の成果、課題及び次年度の計画について            若者・外国人未来応援事業の役割について</p>

【知立地域協議会】

回	月日	会場	協議内容
1	令和7年8月27日 (水)	刈谷市 社会教育センター	<p>【報告】</p> <p>(1) 「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について</p> <p>(2) 知立地域における「若者・外国人未来応援事業」の実施状況について</p> <p>【協議】</p> <p>(1) 各地域における義務教育以降の、生きにくさを抱えた子供若者たちの支援について、各市町の支援機関では、どのように取り組んでいるか</p> <p>(2) 外国人の若者の課題と若者支援について</p> <p>(3) 「若者、外国人未来応援事業」(知立)と、どんな連携が考えられるか</p>
2	令和8年2月19日 (木)	刈谷市 社会教育センター	<p>【報告】</p> <p>(1) 「若者・外国人未来応援事業」の令和7年度の実施状況について</p> <p>(2) 知立地域における「若者・外国人未来応援事業」の令和7年度の実施状況について</p> <p>【協議】</p> <p>(1) 各市各支援機関における、外国人の子ども若者支援の現状について、見聞きしていること、実際に支援しているケース等 外国人以外でも、気になる事例や、外国人の子ども若者支援について、今後に向けて気になること</p> <p>(2) 来年度未来塾知立で取り組もうと考えていることについて</p>

## 5 学習支援に参加された皆さんの声

学習支援参加者（日本語学習支援含む。）にとって、この事業に参加してみて、自分自身にどのような変化があったのかなど、経験の振り返りを呼びかけたところ、何人かの方が応えてくれました。

この事業を利用し、感じたことを自分の言葉で表現をしてくださいました。学習支援参加者の貴重な「生の声」として掲載させていただきます。

### 【消防士になるために】 豊橋地域 17歳

私は、去年の10月頃に高校を中退しました。

私は、高校に通っていた時から消防士になりたいと思っていました。スポーツをやっていたから体力に自信はあります。そのため、調べてみると高卒の資格が必要であることがわかりました。

一人で歴史を勉強するのが難しいので、ここで勉強ができてよかったです。

### 【学習と面談】 半田地域 20代

毎月参加するようにしています。しばらくの間、何を学習するか担当の方と決めていくことも時間がかかってしまいましたが、今は勉強をしたいことや自分の取り組みたい内容が決まってきたので勉強をして覚えていけることが楽しいです。

## 6 事業の成果と課題

第2回合同協議会の資料から、ポイントとなることを以下に挙げた。

### (1) 成果

#### ○高等学校卒業程度認定試験合格・高校進学など進路実現

- ・高等学校卒業程度認定試験（以下、「高認」）合格者
- ・進路変更者・不登校生徒が学び直しの結果、高校・大学・専門への進学した事例があった

#### ○個別対応の学習支援が機能

- ・基礎学力、日本語、定期考査対応など多様なニーズについて、柔軟に支援
- ・継続による学力や語彙力の向上が見られる

#### ○居場所としての安定した機能

- ・安心感、表情の変化、意欲回復など心理面でのプラスが明確
- ・参加者同士でのつながりが生まれている

#### ○関係機関連携

- ・市役所、学校、サポステ等との連携により本事業につながる
- ・定時制・通信制高等学校合同説明会

#### ○生活改善の効果

- ・生活リズム改善、外出や社会参加の増加
- ・アルバイトや就労につながる事例も生まれている

#### ○情報共有体制が整備

- ・記録簿、学習記録、ミーティングなどを各地域において実施
- ・ICT（Teams、スプレッドシートなど）も活用

#### ○外国にルーツをもつ方への支援に一定の成果

- ・語彙力向上、日本語学習者同士の交流
- ・多文化担当課や学校との連携も進展

### (2) 課題

#### ○目標達成を見据えた次の進路

- ・高認試験を受験した後などに次のステップ（進学・就労）へ進めないケースが多い

#### ○個別支援の負担増・専門性への不安

- ・理系科目、日本語初期指導などは人員が限られる
- ・基礎学力不足者・外国にルーツをもつ方への複雑支援への対応

#### ○居場所機能を求める声と落ち着いた学習環境を求める声の混在

- ・「学習したい」「安心したい」が同居する『場づくり』の難しさ
- ・支援方針の統一が難しい

#### ○複合的な課題への対応

- ・利用者は、複合的な課題を抱えている場合が多く、学習支援以外の課題について、解決するための連携体制

### ○継続利用の困難（生活・心理要因）

- ・家庭事情・体調変化・心理不安で、継続利用ができない
- ・孤立感への支援に限界がある

### ○情報周知

- ・不登校者が多い地域でも、利用者が少ない（0人）時がある
- ・夜間中学・フレキシブルハイスクールなどへの周知

### ○外国にルーツをもつ方への支援の複雑化

- ・保護者と本人の意向不一致（外国にルーツをもつ方に限らず）
- ・支援者のみでなく（外国にルーツをもつ）保護者のコミュニケーション

### <取組全体を振り返って>

#### ○事業全体の実績について

9か年の実績		実績
※ ここでの参加者は、各年度事業開始から第2回高等学校卒業程度認定試験日までの人数とした。		
①	本事業参加者・延べ人数	972人
②	高等学校卒業程度認定試験受験者・実人数（累積）	243人
③	高等学校卒業程度認定試験合格者・全科目合格者数	108人
④	・一部科目合格者数（延べ）	116人
⑤	学習支援参加者における高等学校卒業程度認定試験受験者数の割合	25.0%
⑥	高等学校卒業程度認定試験受験者における全科目合格率	44.4%

事業実施から9年目を迎え、累積ベースでの計算になるが、参加者の4人に1人が高卒認定試験を受験（高卒認定受験率： $⑤=②/①$ ）している。しかし、今年度限ってみると16.0%となっており、ここ数年は、減少傾向となっている。これは、本事業参加者の利用目的の多様化の表れと見ることができると考える。また、②については、高卒認定試験は複数回受験ができるため、複数年度にわたり受験する方もみえる。したがって、実際の人数は減ることになるが、高卒認定試験9人に4人が合格（高卒認定合格率： $⑥=③/②$ ）

年度	⑤	⑥
2025	16.0%	48.0%
2024	18.9%	53.3%
2023	21.1%	37.1%
2022	27.5%	46.2%
2021	26.0%	45.5%
2020	32.3%	36.7%
2019	39.3%	45.8%
2018	52.8%	42.1%
2017	25.0%	50.0%

しており、受験者にとって、本事業が次へのステップの一助になっているといえる。

#### ○学習支援に参加した結果、気持ちの変容が見られた

「高等学校卒業程度認定試験に（一部科目合格も含めて）合格した」という成功体験や、「小学校や中学校で分からなかったことが、分かるようになった」、「学習する習

慣ができた」、「勉強やる気になった」など、学ぶことの楽しさを感じたり、自分に自信が出てきたりすることから、前向きにいろいろなことに取り組もうとするような意欲の向上につながるケースが見られるようになった。その結果、次の目標を設定する、他の資格取得・社会参加へ向けて前向きな気持ちになるケースがあった。また、学習支援を受けた経験から、「同じような経験をしている人のためになりたい」という思いから、学習支援に携わる側として、参加する方も現れるなどのケースも見られる。

### ○利用者の継続利用の難しさ

第2回合同協議会では、「利用者の継続利用の難しさ」が大きな話題となった。

今年度の利用状況を見ると、年間参加回数が1～5回の利用者は全体の49.7% (92人/185人)であり、約半数が少ない回数の参加にとどまっている。一方で、年間22回以上(月2回以上)の参加者は16.7% (31人/185人)にとどまった。

また、不登校やひきこもりの経験がある利用者は50人(27.0%)で、本事業の利用者が抱える課題の複雑さを示す一つの指標となっている。経験者のうち、参加回数が1回から5回までの利用者は26人と約半数を占める。さらに、参加回数1回の利用者39人のうち、不登校等の経験が

回	参加者(人)	うち不登校等経験者(人)	
1	39	14	26
2	18	6	
3	16	2	
4	12	3	
5	7	1	
6～21	62	17	
22～	31	7	
計	185	50	

▲ 参加回数の内訳(令和7年度)

ある人は35.9%(14人)であった。継続利用が難しかった理由は、単一の要因に限定されるのではなく、複数の要因が重なっているケースが多い。中でも、過去の不登校・ひきこもり経験が心理的なハードルとなっているともみることができる。

### ○支援の対象者増加に伴う学習履歴・目的などの多様化への対応

高等学校卒業程度認定試験の受験を目標としていても、これまでに不登校やひきこもりを経験している場合、学力の蓄積が十分でないこともある。また、学校で学ぶ内容をより深く理解したい、外国にルーツをもつ方や、障害・さまざまな悩みを抱えた方が「学びたい」という意欲をもって利用するケースも増えている。その結果、支援対象者の学習履歴や目的意識は多様化しており、それに伴い支援員・スタッフには幅広いニーズに応じる対応力が求められる。さらに、そのような対応が可能な支援員・スタッフの確保も重要である。

高等学校卒業程度認定試験に合格するなど、学習面で一定の目標を達成したとしても、利用者にとってそれはゴールではない。合格という成果をどのように活用し、今後の人生をどう歩み、社会と関わっていくかが重要となる。また、支援対象者の中には、この事業に参加する前に他者との関わりが少なく、学校や地域で十分な経験を積んでいないために、自己有用感を高めることが難しい人も多い。そのため、学習達成後の新たな目標設定を支援する仕組みも、「切れ目のない支援」として必要である。

加えて、支援員間の情報共有も欠かせない。同じ支援者が常に対応できるとは限らないため、プライバシーへの配慮を徹底しながら組織的に情報を共有することは、支援者・利用者双方の不安を軽減する上で重要である。さらに近年は、高等学校学習指導要領の改訂に伴う入学者選抜方法の多様化や、Web出願導入など、入試制度をめぐる新たな動きも多い。こうした変化に対応するためにも、高等学校や大学の入試制度を含め、必要な情報を継続的に更新していくことが求められる。

### ○他機関との「連携」の強化

本事業の特徴の一つは、支援対象者がどの組織にも所属しておらず、その把握が非常に難しい点にある。そのため、広報による事業周知はもちろん、支援を必要とする人に確実に届くよう、さまざまな支援機関・団体との連携を強化することが不可欠である。

また、「連携」は事業周知のためだけでなく、対象者を適切な支援につなぐという観点からも重要性が高まっている。本事業では学習支援に加えて、相談・助言なども行っているが、支援対象者は多様な背景を抱え、複合的な課題を有することも少なくない。こうした課題を本事業だけで解決することは難しく、委託団体や他機関と協力し合いながら、支援の選択肢を相互に持ち寄る体制が求められている。

その手段の一つとして、「若者未来応援協議会」の活用が考えられる。設置要綱では、協議会の目的を「中学卒業後の進路未定者や高等学校中退者等の自立を応援するため、地域若者サポートステーションと連携し、学校、就労支援機関はもとより福祉、保健、その他関係者等との意見交換の機会を設定すること」と定めている。この協議会では、本事業の現状報告や課題の共有を中心に議論が行われている。

特に、地域協議会では、参加者が抱える悩みや課題を具体的な事例として提示し、その解決策を検討する場として機能している。多様な関係機関が一堂に会する貴重な機会であり、本事業の課題解決に資するだけでなく、委員同士のつながりを深め、各団体の活性化にも寄与することが期待される。

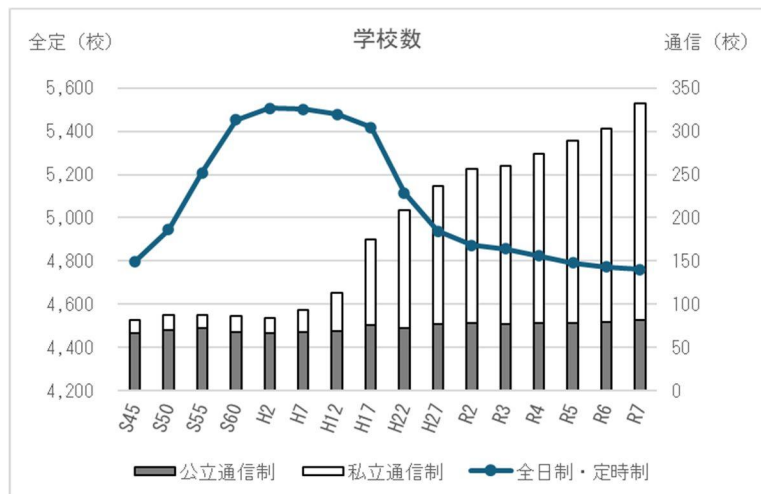
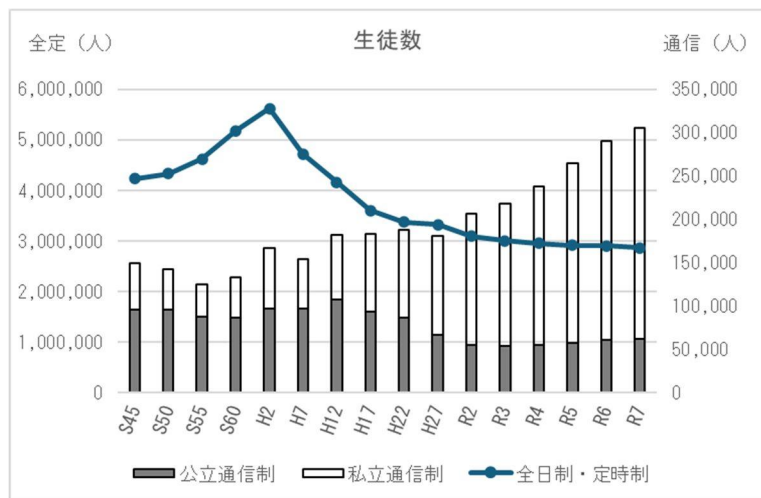
### ○高卒認定試験の受験動向と通信制課程の拡大に伴う支援ニーズ

高等学校卒業程度認定試験の結果を見ると、2024年度は、出願者数について減少したが、2025年度は増加し、2023年度の水準に戻った。高等学校卒業程度認定試験は、高等学校を卒業した者と「同等以上の学力」があるかどうかを認定する学力試験であるため、高等学校を卒業したという学歴として認められる訳ではない。そのため、高卒資格を取得したい場合は高等学校へ入学する必要がある。現在、その受け入れ先が通信制課程を有している学校になっている可能性がある。

		出願者数（延べ）		
		8月	11月	合計
2025	愛知県	592	574	1,166
	全国	9,605	9,445	19,050
2024	愛知県	512	490	1,002
	全国	9,111	8,518	17,629
2023	愛知県	560	580	1,140
	全国	9,533	9,658	19,191

▲ 高等学校卒業程度認定試験 出願者数

実際、学校数や在籍生徒数（参考資料：全国私学通信制高等学校協会 第4回学校運営研究会 第2部 講演資料（2） を参考）を見ると、令和2年度から通信制高等学校の学校数は75校、生徒数は約91,700人増加しており、特に、私立の学校の増加が著しい。自由度の高いカリキュラムにより自分のペースで学べることを特徴とする通信制課程に生徒が集まるようになってきた要因としては、①不登校生徒の増加、②多様な学び方への理解定着ということが考えられる。一方、デメリットとして、自己管理が求められる卒業のハードルは決して低くない。高等学校卒業程度認定試験は、科目合格をすることで、特に、通信制高等学校では卒業単位として認められるケース卒業までのサポートとして活用される場面も考えられる。



多様な学びのスタイルがあることは、目標実現のための選択肢が増えることに

つながる。しかし、学校基本調査によると、高等学校の卒業後の状況について、令和6年5月1日現在、令和5年度間に卒業した者のうち、通信制課程に通学した生徒の進路未定者の割合（28.2%）が、全日制課程（4.3%）に比べて、約7倍となっており、課題の一つに挙げられている。通信制課程在学中に進路についてしっかり考え、次のステップに進めるように、サポートする環境が必要である。本事業は、「高等学校卒業程度認定試験合格に向けた無料の学習支援」が柱となっており、事業実施の年数を重ねるごとに利用者の背景・ニーズが多様化していることは先にも挙げた。2025（令和7）年度の利用者のうち高等学校に在籍しているのは58名（学習支援のみ）おり、そのうち24名が通信制課程、8名が定時制課程に通学（その他、全日制課程：25名、不明：1名）している。先に挙げた課題を解決するために、本事業が一翼を担っている面もあると考えられる。

通信制高等学校のニーズが高まっているとはいえ、様々な理由から高等学校に通うことはできないが、高等学校相当の学力保証が必要な方は一定数いると思われるため、広報・情報発信は様々な関係各所でも必要である。

## ○居場所としての機能

こども家庭庁は、2023（令和5）年12月22日に「こどもの居場所づくりに関する指針」を公表した。こどもの居場所づくりが求められる背景として、主に次の点が挙げられている。

- ・地域のつながりの希薄化、少子化の進展などの社会構造や経済構造の変化により、こども・若者が居場所をもつことが難しくなり、「こども・若者が地域コミュニティの中で育つ」ことが困難になっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響からの臨時休業や、「ソーシャルディスタンス」の確保によりコミュニケーションが希薄化した。
- ・こども・若者を取り巻く環境に目を向けると、児童虐待の相談対応件数の増加や不登校、いじめ重大事態の発生件数の増加、自殺するこども・若者の数の増加など、課題が複雑かつ複合化し、こどもの権利が侵害される事態がある。

この指針では、居場所の定義を「こども・若者が過ごす場所、時間、人との関係性全てが、こども・若者にとっての居場所になり得る。すなわち多様な形態をとり得るものである。こうした多様な場がこどもの居場所<sup>8</sup>になるかどうかは、一義的には、こども・若者本人がそこを居場所と感じるかどうかによっている。その意味で、居場所とは主観的側面を含んだ概念である。」としている。本事業で実施している学習支援についても、多くの利用者にとって「居場所」としての機能を果たしていると考えられる。

---

<sup>8</sup> 指針の中では、具体的なものとして、子ども食堂、児童館や児童遊園などの児童福祉施設、公民館、図書館、青少年教育施設などの社会教育施設や子ども会、スポーツ少年団などの青少年団体、学校（学校図書館を含む。）、教育支援センター、放課後児童クラブ、放課後等デイサービス、公園の活用、高齢者や障害者向けの社会福祉施設、地域の社会福祉協議会、学習・生活支援事業や児童育成支援拠点事業、重層的支援体制整備事業などを挙げている。また、営利活動としての塾や習い事、SNSやオンラインゲームなどのデジタル空間、ショッピングモールなど居場所づくりを目的として行われているものではないが、結果としてこどもの居場所となっているものも挙げられている。

愛知県では、2025（令和7）年度に夜間中学<sup>9</sup>や中高一貫校<sup>10</sup>の開校、フレキシブルハイスクール<sup>11</sup>と新しいタイプの学校が開設している。特に、夜間中学やフレキシブルハイスクールに所属する生徒は、これまでの背景から、本事業を「居場所」の一つとして利用する可能性が高いと考えられる。こうした点からも、利用者との「つながり」を大切にすることが必要である。

生涯学習を推進する本課としては、学校教育との連携をより一層充実させ、多様な目的をもつ利用者が抱える悩みを解決し、次のステップへ進むことができる事業としていくことが求められる。そのためには、各地域の委託団体に対する支援をさらに強化していく必要がある。

事業の実施を委託している県内9地域の団体は、年数に差はあるものの、これまでに確実にノウハウを蓄積し、実績を重ねてきている。今後は、こうしたノウハウを県全体で共有し、各地域での支援に還元することで、事業全体の質の向上を図る仕組みを構築していくことが重要である。

課題については、一つずつ解決を図りながら、一人でも多くの方が、今置かれている困難な状況を乗り越えて、自らの将来に希望をもつ手助けができる事業となるよう、次年度以降も進めていきたい。

---

<sup>9</sup> 2025（令和7）年度に愛知県立豊橋工科高等学校内へ「愛知県立とよはし中学校」が開校。また、2026（令和8）年度には愛知県立豊田西高等学校内へ「愛知県立とよた中学校」、愛知県立小牧高等学校内へ「愛知県立こまき中学校」、愛知県立一宮高等学校内へ「愛知県立いちのみや中学校」が開校。

<sup>10</sup> 併設型・連携型合わせて11校導入。うち、2026（令和8）年度に併設型として愛知県立日進高等学校内に「学びの多様化学学校（不登校経験のある生徒の能力、可能性を引き出す学校）」、連携型として愛知県立衣台高等学校に「外国にルーツのある生徒の能力、可能性を引き出す学校」として開校を予定。

<sup>11</sup> 多様な学習ニーズをもつ生徒にとって学びやすい高校として、全日制・昼間定時制・通信制の3課程を一つの学校内に置き、3課程間をフレキシブルに行き来して学べる高校を2025年度に佐屋、武豊、豊野、御津あおばの4校に開設。

【「こども・若者、子育て当事者の置かれた状況等を把握するための指標」の状況】

こども大綱において、こども・若者や子育て当事者の置かれた状況等を把握するために設定した各種指標の最新値は以下のとおり。

項目	現状	出典
「こどもは権利の主体である」と思う人の割合	54.4% (2023年度)	こども家庭庁「こども政策の推進に関する意識調査」
「あなたの周りには、こどもや若者の遊びや体験活動の機会や場が十分にある」と思う人の割合	40.4% (2023年度)	こども家庭庁「こども政策の推進に関する意識調査」
BMI18.5未満の20～30歳代の女性の割合	20.2% (2023年)	厚生労働省「国民健康・栄養調査」
こどもの貧困率（注1）	11.5% (2021年) 10.3% (2019年)	厚生労働省「国民生活基礎調査」総務省「全国家計構造調査」
生活保護世帯に属するこどもの高校等進学率	92.5% (2023年4月1日現在)	厚生労働省社会・援護局保護課調べ
生活保護世帯に属するこどもの高校等中退率	3.7% (2023年4月1日現在)	厚生労働省社会・援護局保護課調べ
生活保護世帯に属するこどもの大学等進学率	42.9% (2023年4月1日現在)	厚生労働省社会・援護局保護課調べ
電気、ガス、水道料金の未払い経験（こどもがある全世帯）	電気料金3.5% ガス料金3.5% 水道料金3.6% (2022年)	国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査」よりこども家庭庁作成
食料又は衣服が買えない経験（こどもがある全世帯）	食料が買えない経験12.1% 衣服が買えない経験13.8% (2022年)	国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査」よりこども家庭庁作成
「障害のあるこども・若者、発達に特性のあるこども・若者の地域社会への参加・包容（インクルージョン）が推進されている」と思う人の割合	27.2% (2023年度)	こども家庭庁「こども政策の推進に関する意識調査」
里親等委託率	3歳未満26.9% 3歳以上就学前33.8% 学童期以降23.1% (2023年度)	厚生労働省「福祉行政報告例」よりこども家庭庁作成
児童養護施設のこどもの進学率	中学校卒業後97.4% 高校等卒業後41.5% (2024年5月1日現在)	こども家庭庁支援局家庭福祉課調べ
児童相談所における児童虐待相談対応件数	225,509件 (2023年度※2025年3月25日時点の公表データ)	厚生労働省「福祉行政報告例」
「自分はヤングケアラーに当てはまる」と思う人の割合	中学2年生1.8% 全日制高校2年生2.3% 定時制高校2年生相当4.6% 通信制高校生7.2% (2020年度) 大学3年生2.9% (2021年度)	こども家庭庁「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」（注2）
小・中・高生の自殺者数	529人 (2024年)	厚生労働省及び警察庁「令和6年中における自殺の状況」
30歳未満の自殺者数	～19歳800人 20歳～29歳2,465人 (2024年)	厚生労働省及び警察庁「令和6年中における自殺の状況」
SNSに起因する事犯の被害児童数	1,486人 (2024年)	警察庁「令和6年における少年非行及び子供の性被害の状況」
小・中・高校における暴力行為発生件数	小学校70,009件 中学校33,617件 高校5,361件 (2023年度)	文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」
30歳未満の不慮の事故での死亡者数	850人 (2023年)	厚生労働省「人口動態統計」
妊産婦死亡率	3.1（出産10万対） (2023年)	厚生労働省「人口動態統計」

項目	現状	出典
妊娠・出産について満足している者の割合	86.4% (2023年度)	こども家庭庁成育局母子保健課調べ
「学校は、こどもが安全に安心して過ごすことができる、こどもにとって大切な居場所の1つである」と思う人の割合	54.4% (2023年度)	こども家庭庁「こども政策の推進に関する意識調査」
安心できる場所の数が1つ以上あるこども・若者の割合	98.1% (2022年)	こども家庭庁「こども・若者の意識と生活に関する調査」
児童・生徒における肥満傾向児の割合	10歳（小学5年生）男子：12.7% 〈参考〉 10歳（小学5年生）女子：9.1% 13歳（中学2年生） 男子：11.7%、女子：8.4% 16歳（高校2年生） 男子：10.9%、女子：6.8% (2024年度)	文部科学省「学校保健統計」
児童・生徒における痩身傾向児の割合	16歳（高校2年生）女子：2.9% 〈参考〉 10歳（小学5年生） 男子：2.9%、女子：3.0% 13歳（中学2年生） 男子：3.2%、女子：3.6% 16歳（高校2年生）男子：3.7% (2024年度)	文部科学省「学校保健統計」
裸眼視力1.0未満の者	小学生36.8% 中学生60.6% 高校生71.1% (2024年度)	文部科学省「学校保健統計」
「食育」に関心を持っている国民の割合	80.8% (2024年度)	農林水産省「食育に関する意識調査」
「こども・若者の心身の健康等についての情報提供やこころのケアが十分だ」と思う人の割合	43.1% (2023年度)	こども家庭庁「こども政策の推進に関する意識調査」
「自分の将来についての人生設計（ライフプラン）について考えたことがある」人の割合	51.8% (2023年度)	こども家庭庁「こども政策の推進に関する意識調査」
いじめの重大事態の発生件数	1,306件 (2023年度)	文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」
パソコンや携帯電話等での誹謗・中傷等のいじめ被害	24,678件 (2023年度)	文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」
小・中学校における不登校児童生徒数	346,482人 (2023年度)	文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」
高校における不登校生徒数	68,770人 (2023年度)	文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」
高校中退率	1.5% (2023年度)	文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」
大学進学率	59.1% (2024年)	文部科学省「学校基本統計」
若年層の平均賃金	～19歳 正社員・正職員201.6千円 正社員・正職員以外179.4千円 20～24歳 正社員・正職員237.0千円 正社員・正職員以外197.3千円 25～29歳 正社員・正職員272.8千円 正社員・正職員以外219.6千円 (2024年)	厚生労働省「賃金構造基本統計調査」
若い世代の正規雇用労働者等（自らの希望による非正規雇用労働者等を含む。）の割合	15～34歳97.7% (2024年1～3月平均)	総務省「労働力調査」

項目	現状	出典
50歳時点の未婚率	男性28.25% 女性17.81% (2020年)	国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集 2025」
「いずれ結婚するつもり」と考えている未婚者の割合	男性81.4% 女性84.3% (2021年)	国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」
合計特殊出生率	1.20 (2023年)	厚生労働省「人口動態統計」
出生数	727,288人 (2023年)	厚生労働省「人口動態統計」
夫婦の平均理想子ども数	2.25人 (2021年)	国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」
夫婦の平均予定子ども数	2.01人 (2021年)	国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」
未婚者の平均希望子ども数	男性1.82人 女性1.79人 (2021年)	国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」
理想の子ども数を持たない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を挙げる夫婦の割合	52.6% (2021年)	国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」
理想の子ども数が3人以上の夫婦で理想の子ども数を持たない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を挙げる夫婦の割合（注3）	59.3% (2021年)	国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」
「保護者の子育てが地域で支えられている」と思う人の割合	30.9% (2023年度)	こども家庭庁「こども政策の推進に関する意識調査」
「保護者が、こどもの基本的な生活習慣や自立心等を育む教育を家庭で行うための支援がされている」と思う人の割合	30.7% (2023年度)	こども家庭庁「こども政策の推進に関する意識調査」
男性の育児休業取得率	30.1% (2023年度)	厚生労働省「雇用均等基本調査」
（育児休業後復職した者のうち）男女の育児休業取得期間	2週間以上の育児休業取得 男性：62.3% 女性：99.3% 1か月以上の育児休業取得 男性：41.9% 女性：98.7% (2023年度)	厚生労働省「雇用均等基本調査」
6歳未満の子どもを持つ夫の家事関連時間（注4）	1日当たり114分（2021年）	総務省「社会生活基本調査」
週労働時間40時間以上の雇用者のうち週労働時間60時間以上の雇用者の割合	8.0% (2024年平均)	総務省「労働力調査（基本集計）」
「社会において、共働き・子育て（家庭内で男女ともに仕事や家事、子育てに参画すること）が推進されている」と思う人の割合	34.5% (2023年度)	こども家庭庁「こども政策の推進に関する意識調査」
第1子出産前後の女性の就業継続率	69.5% (2021年)	国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」
ひとり親家庭のこどもの就園率（保育所・幼稚園等）	79.8% (2021年)	こども家庭庁「全国ひとり親世帯等調査」（注2）
ひとり親家庭のこどもの進学率	中学校卒業後94.7% 高校等卒業後65.3% (2021年)	こども家庭庁「全国ひとり親世帯等調査」（注2）
電気、ガス、水道料金の未払い経験（ひとり親世帯）	電気料金8.5% ガス料金8.7% 水道料金10.4% (2022年)	国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査」よりこども家庭庁作成
食料又は衣服が買えない経験（ひとり親世帯）	食料が買えない経験21.1% 衣服が買えない経験19.0% (2022年)	国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査」よりこども家庭庁作成
子どもがある世帯の世帯員で頼れる人がいないと答えた人の割合（ひとり親世帯）	重要な事柄の相談12.0% いざという時のお金の援助18.5% (2022年)	国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査」よりこども家庭庁作成
子どもがある世帯の世帯員で頼れる人がいないと答えた人の割合（等価可処分所得第Ⅰ～Ⅲ十分位）	重要な事柄の相談8.9% いざという時のお金の援助18.6% (2022年)	国立社会保障・人口問題研究所「生活と支え合いに関する調査（特別集計）」

項目	現状	出典
ひとり親家庭の親の就業率	母子世帯83.0% 父子世帯87.8% (2020年)	総務省「国勢調査」
ひとり親家庭の親の正規の職員・従業員の割合	母子世帯50.7% 父子世帯71.4% (2020年)	総務省「国勢調査」
ひとり親世帯の貧困率	44.5% (注5) (2021年) 53.3% (注6) (2019年)	厚生労働省「国民生活基礎調査」 総務省「全国家計構造調査」

(注1) 貧困線（等価可処分所得の中央値の半分）に満たない子ども（17歳以下）の数を子どもの数で除したものを。

(注2) 調査実施当時は厚生労働省所管。

(注3) 予定子ども数が理想子ども数より少ない夫婦のうち、理想子ども数が3人以上で予定子ども数が2人以上の夫婦が、理想の子ども数を持たない理由として「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を選択する割合。

(注4) 夫婦と子どものみの世帯の夫を対象とし、夫婦の親がいる場合やシングルファーザーなどを含まない。

(注5) 貧困線に満たない大人1人（18歳以上65歳未満）と子ども（17歳以下）から成る世帯の世帯員数を大人1人と子どもから成る世帯の世帯員数で除したものを。

(注6) 貧困線に満たない大人1人（18歳以上）と子ども（17歳以下）から成る世帯の世帯員数を大人1人と子どもから成る世帯の世帯員数で除したものを。



2025年度（令和7年度）

愛知県「若者・外国人未来応援事業」成果報告書

発行 令和8年3月

愛知県教育委員会あいちの学び推進課

名古屋市中区三の丸三丁目1番2号